

宇都宮市M I C E戦略

令和4年3月

宇都宮市

1 戦略策定について

- (1) 趣旨
- (2) 位置づけと計画期間

2 MICEを取り巻く現状

- (1) MICEとは
- (2) MICEがもたらす効果
- (3) 国際MICEの潮流
- (4) 国内MICEの状況
- (5) MICEの現状分析

3 宇都宮市MICEの現状と課題

- (1) 宇都宮市におけるMICEの現状
- (2) 宇都宮市におけるMICEの強み
- (3) 自都市分析
- (4) 宇都宮市におけるMICEの課題

4 宇都宮市MICE戦略

- (1) 目指す将来像
- (2) 宇都宮市MICEのねらい
- (3) 宇都宮市MICEの方向性
- (4) 重点分野の設定
- (5) 成果指標の設定
- (6) 基本施策及び基本事業
- (7) 具体的施策

5 推進体制

宇都宮市におけるMICE推進体制

【背景】

- 都市をめぐる社会展望として、少子・超高齢社会と人口減少時代の到来があげられる。
- これらによる生産年齢人口の減少は、都市の生産力の低下を招き、経済規模の縮小や投資余力の低下が懸念される。
- 宇都宮市においては、約51.6万人の人口（2022年3月1日現在）が2050年までに約6.2万人減少が見込まれている。
- 経済規模の縮小は、人々の集積や交流を通じたイノベーションを生じにくくし、成長力が低下するといった、都市の活力低下の悪循環を生み出すことが想定される。
- そのため、持続的経済成長を図るため、宇都宮市の強みを活かした経済の活性化に向けた取組が求められている。

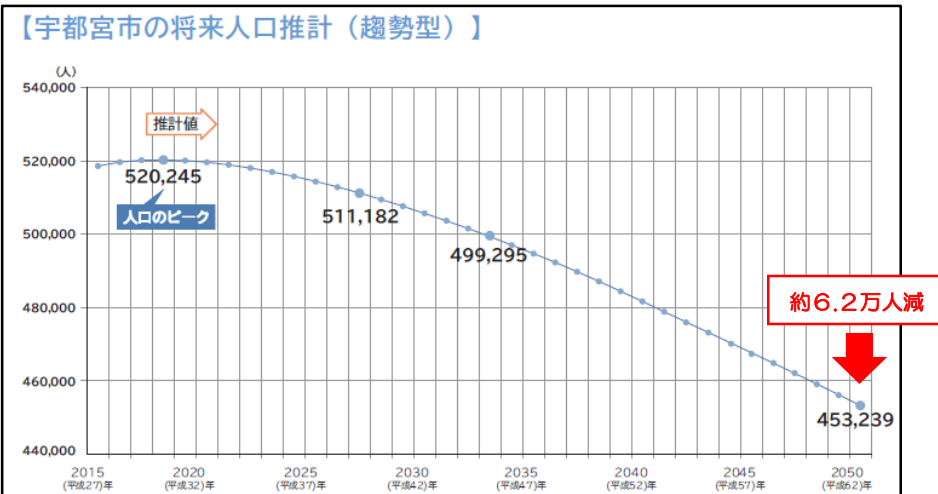
【MICEに取り組む目的】

- MICEは、会議開催、宿泊、飲食、観光など経済・消費活動の裾野が広く、大きな経済波及効果が期待される。
- 国内外からの交流人口の拡大により、新たなビジネス・イノベーション機会の創出が期待される。
- MICEを通じた人や情報の流通、ネットワーク構築の容易さなどは、都市の競争力やブランドイメージの向上につながることを期待される。

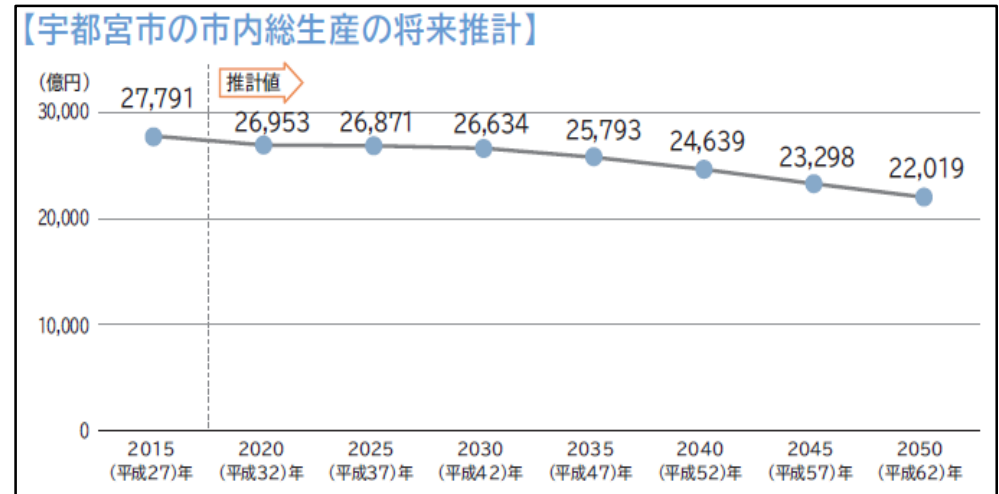
【策定の趣旨】

- 宇都宮市においては、2022年11月にJR宇都宮駅東口に新たな交流拠点施設が開業となることから、更なるMICEの開催が期待される。
- 各都市においては、MICEの誘致活動や受入体制の強化に積極的に取り組んでおり、また、ポストコロナにおいては、リアルとバーチャルの融合による新たな開催形態への対応が求められるなど、都市間におけるMICE誘致競争は、より一層、厳しさが増すものと見込まれている。
- 宇都宮市が更なる経済活性化を実現するためには、MICEの推進に産官学民が一丸となり、都市が総力をあげて取り組む必要がある。
- 本戦略をMICE推進のための共通認識とし、都市が一丸となり連携を図りながら、経済の活性化を促進するため、MICEの推進に取り組む。

○ 宇都宮市における将来人口の推移



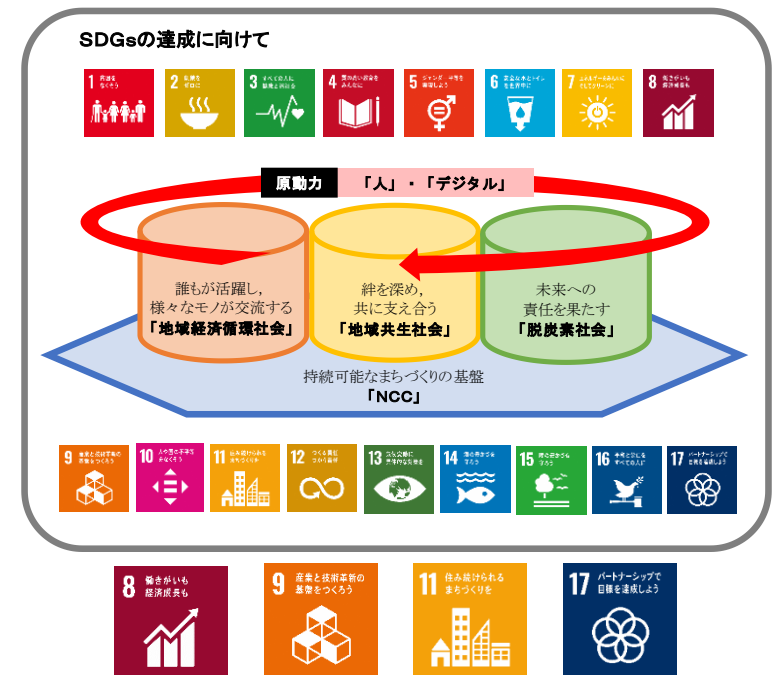
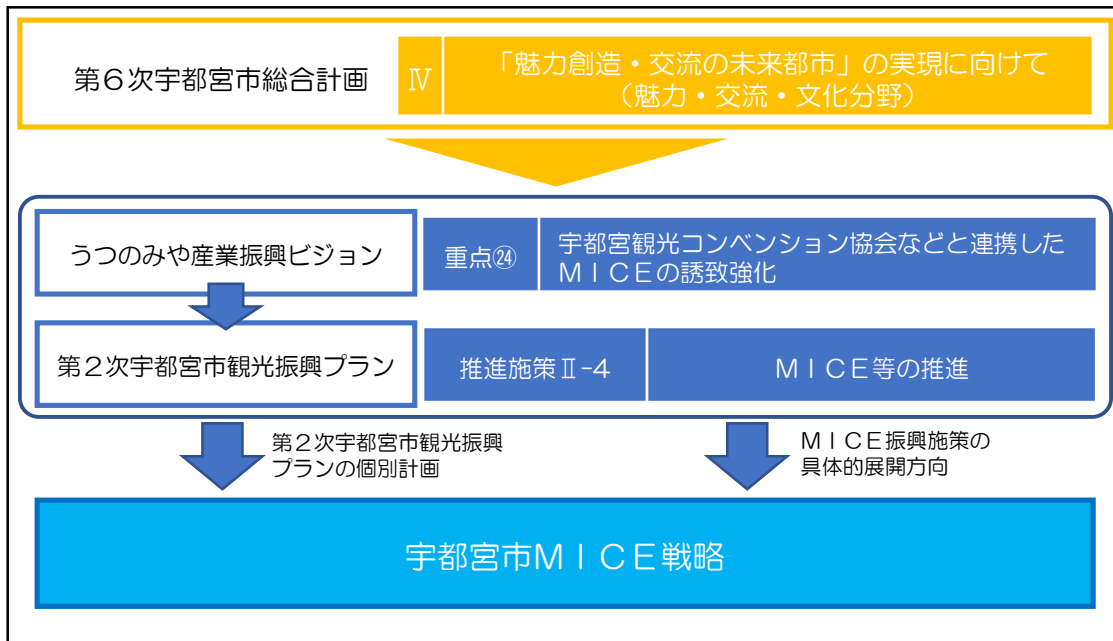
○ 宇都宮市における市内総生産の推移



1 戦略策定について (2) 位置づけと計画期間

【戦略の位置づけ】

- MICEは、一般の観光振興とは性質を異にし、学会・協会や民間企業等への独自性のあるアプローチを要するなど、専門性が高く、MICEに特化した対応が求められる。
- 本戦略は、宇都宮市のまちづくりの指針となる「第6次宇都宮市総合計画」における「魅力創造・交流の未来都市」の実現に向け、分野別計画である「うつのみや産業振興ビジョン」に紐づく「第2次宇都宮市観光振興プラン」の個別計画として位置づけ、MICEの推進・活用による経済の発展及び開催地としての知名度向上に向けた基本的な考え方や施策の方向性等を具体的に示すものである。
- 「スーパースマートシティ」を構成する社会の一つである「地域経済循環社会」の構築に向け、産官学民が一丸となり、MICE推進の目指す姿や取組の方向性等を共有しながら、総力をあげて取り組むため、「宇都宮市MICE戦略」を策定する。



SDGsへの貢献
(17ゴールのうちゴール8, 9, 11, 17)

【計画期間】

- 本戦略の期間は、令和4年度から令和8年度までの5年間を対象とする。
- ただし、同期間中における「第2次宇都宮市観光振興プラン」の改定や新型コロナウイルス感染症の社会的状況等を踏まえ、適宜、見直しを行うものとする。

2 MICEを取り巻く現状 (1) MICEとは

MICEは、企業が行うMeeting（企業系会議）、営業成績優秀者や従業員等を対象としたIncentive Travel（報奨・研修旅行）、国際機関・団体、学会等が主催するConvention（大会・学会・国際会議）、Exhibition/Event（展示会、見本市、イベント）の頭文字で、多くの集客・交流が見込まれるビジネスイベントの総称。

本戦略では、観光庁の定義に基づき、MICEを以下のように位置づける。

M Meeting

主に企業がグループ企業やパートナー企業等を集めて行う企業会議、大会、研修会等の会合（＝コーポレートミーティング）を指す。

例：海外投資家向けセミナー、グループ企業の役員会議 等

I Incentive(Travel)

企業が従業員やその代理店等の表彰や研修等の目的で実施する旅行のことで、企業報奨・研修旅行と呼ばれる。

例：営業成績の優秀者を集めた旅行 等

C Convention

いわゆる国際会議であり、学会や産業団体、さらには政府等が開催する大規模な会議を一般的に指す。

例：北海道・洞爺湖サミット、国連防災世界会議、世界水フォーラム、世界牛病学会 等

E Exhibition / Event

国際見本市、展示会、博覧会といったエキシビジョンや、スポーツ・文化イベントなど大小さまざまなものが含まれる広範な概念である。

例：東京国際映画祭、世界陸上競技選手権大会、国際宝飾祭、東京モーターショー 等

2 MICEを取り巻く現状 (2) MICEがもたらす効果

MICEは、企業・産業活動や研究・学会活動等と関連している場合が多いことから、一般的な観光とは性格を異にする部分が多いとされている。そのため、MICEを観光振興の視点のみで捉えるのではなく、「人が集まる」という直接的な効果はもとより、人の集積や交流から生まれる付加価値や、地域全体の経済効果、安定した集客等につながる活動であるといった認識を高める必要がある。

1 ビジネス・イノベーション機会の創出

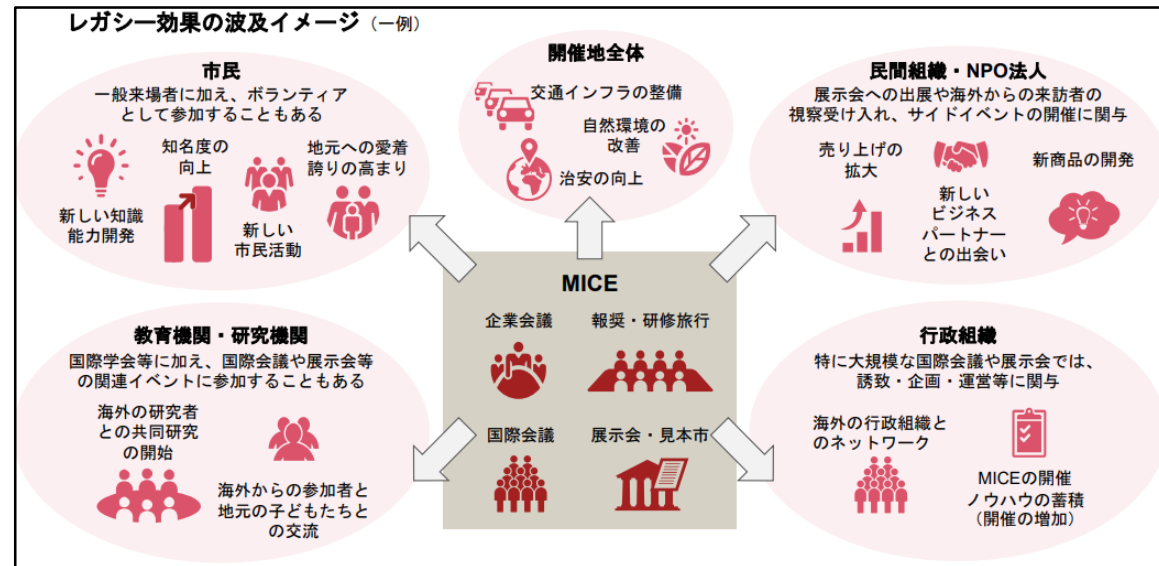
- 国内外から多くの企業や学会などの関係者が宇都宮市を訪れることで、関係者とのネットワーク構築の機会が増加し、新たなビジネスやイノベーションの創出につながる。
- また、MICEの開催を通じ、世界の最新情報や先端技術等に触れることで、新しいアイデアやヒントが得られ、産業の活性化にもつながることが考えられる。
- 宇都宮市においても、MICE参加者が産業視察などの現場体験を通じ、本市の技術力や商品・サービスに対する認知・理解を深め、地域の産業振興の促進につながることが期待される。

2 地域への経済波及効果

- MICE開催を通じた主催者・参加者・出展者等の消費支出や関連の事業支出は、開催地域を中心に大きな経済波及効果を生み出すことが期待されている。
- MICEは、会議開催や宿泊、飲食、観光など消費行動の裾野が広く、参加者の滞在期間も比較的長いと言われており、一般的な観光客以上に周辺地域への経済効果を生み出すことが期待されている。
- MICEにおける訪日外国人参加者の平均消費額は、一般観光の約2.1倍であり、高い経済効果を生み出す。

3 都市のブランドイメージの向上

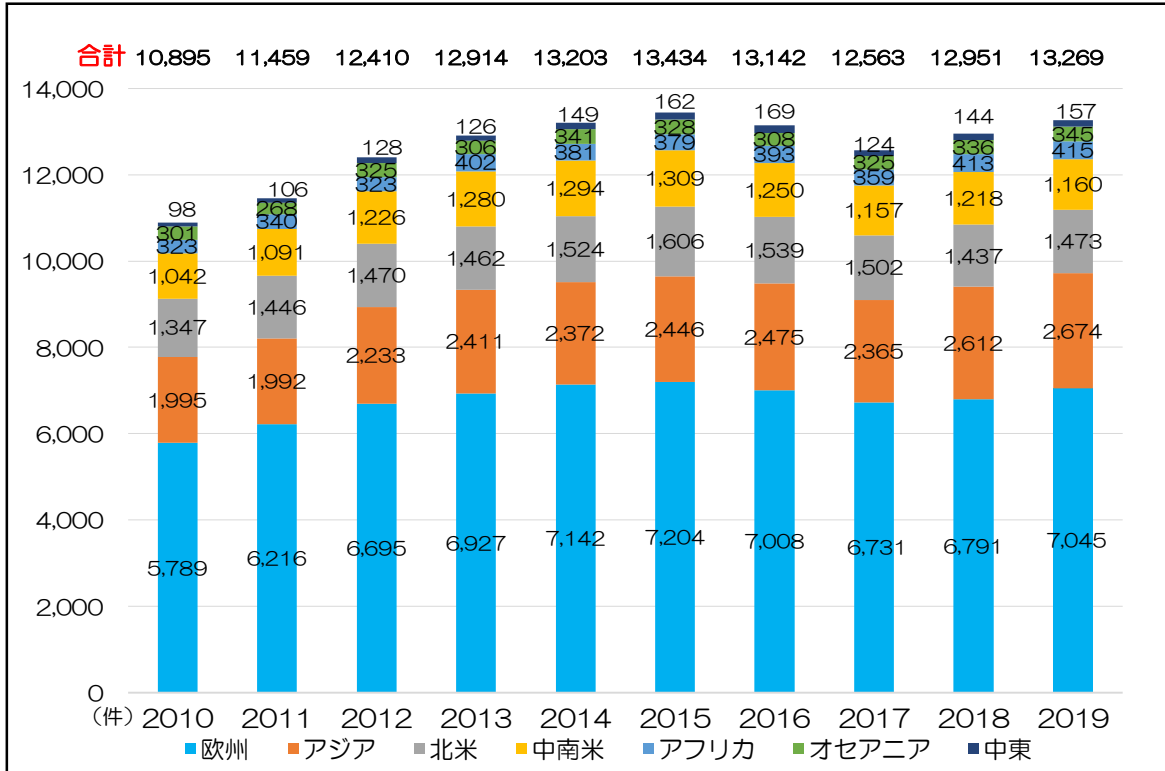
- MICEを通じた国際・国内相互の人や情報の交流、ネットワークの構築、集客力等は、ビジネスや研究環境の向上につながり、都市の競争力向上につながることが期待されている。
- MICE開催を通じた情報の流通やネットワークの構築などは、都市のブランドイメージの向上につながり、さらには、市民の宇都宮市に対するシビックプライドの高まりにもつながる。
- 宇都宮市を訪れた参加者に「観光・MICE都市」としてのブランドイメージを訴求することにより、リピーターの確保につながるなど、交流人口の更なる増加が期待できる。



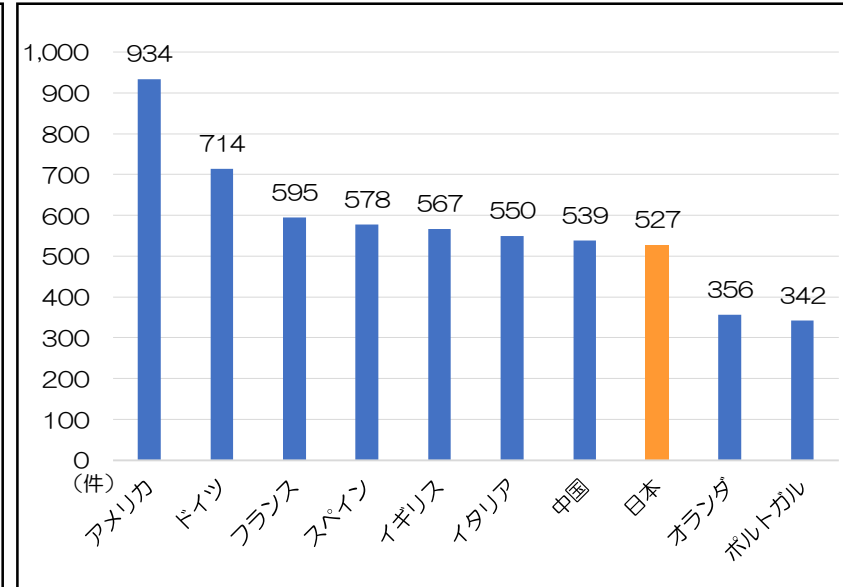
2 MICEを取り巻く現状 (3) 国際MICEの潮流

- 「2019年国際会議統計」(JNTO (Japan National Tourism Organization : 日本政府観光局))によると、2019年の世界の国際会議開催件数は13,269件となっている。
- 日本国内で開催された国際会議は527件あり、世界ランキングは第8位、アジア・太平洋地域では中国に次いで2位となっている。
- 開催件数が最も多い国はアメリカであり、日本の約1.8倍となっている。
- 新型コロナウイルス感染症拡大により、多くのMICEが中止・延期を余儀なくされており、ポストコロナにおいては、オンライン開催やハイブリッド開催など、これまでの開催形態とは異なる対応が求められることから、MICE誘致競争は、より一層、厳しさが増すものと見込まれている。

○ 大陸別国際会議の開催件数



○ 国別国際会議開催件数 (2019年)



○ 日本の国際会議の開催件数 (件)

2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
365	279	373	392	394	401	431	414	492	527

【ICCA (国際会議協会) 国際会議統計の選定基準】
ICCAが公表している選定基準は以下のとおり

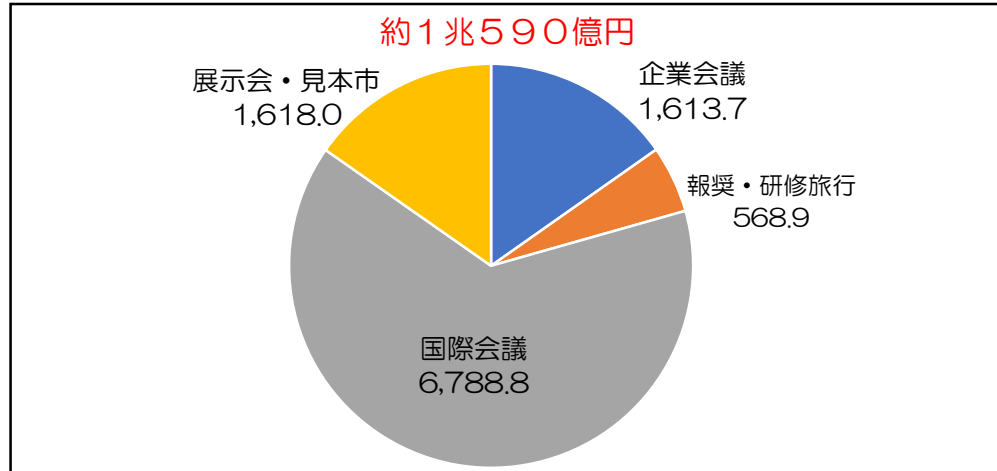
- (1) 参加者総数：50名以上
- (2) 開催期間：定期的開催
(1回のみ開催した会議は除外)
- (3) 開催国：3カ国以上で会議のローテーションがある
(2カ国間会議, 政府系会議, 国連主催の会議は除外)

出典：JNTO「2019年国際会議統計」
(ICCA国際会議統計資料に基づきJNTOが作成)

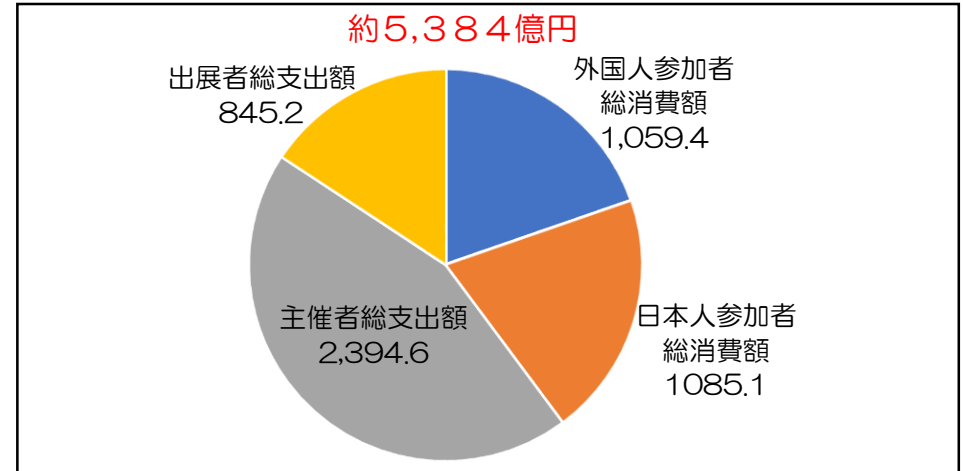
2 MICEを取り巻く現状 (4) 国内MICEの状況

- 2013年に閣議決定された「日本再興戦略-JAPAN is BACK-」においては、「2030年にはアジアNo.1の国際会議開催国として不動の地位を築く」という目標が掲げられ、人や知見、投資を日本に呼び込む重要なツールとしてMICEが位置づけられた。
- 観光庁は、2017年に国際MICE全体の調査を初めて実施し、2016年に国内で開催された国際MICE全体による経済波及効果を発表した。
- 外国人参加者1人あたりの消費額は平均33.7万円となっており、これは一般的な外国人観光客の1人当たりの消費額15.8万円（2019年観光庁統計）の約2.1倍にあたる。

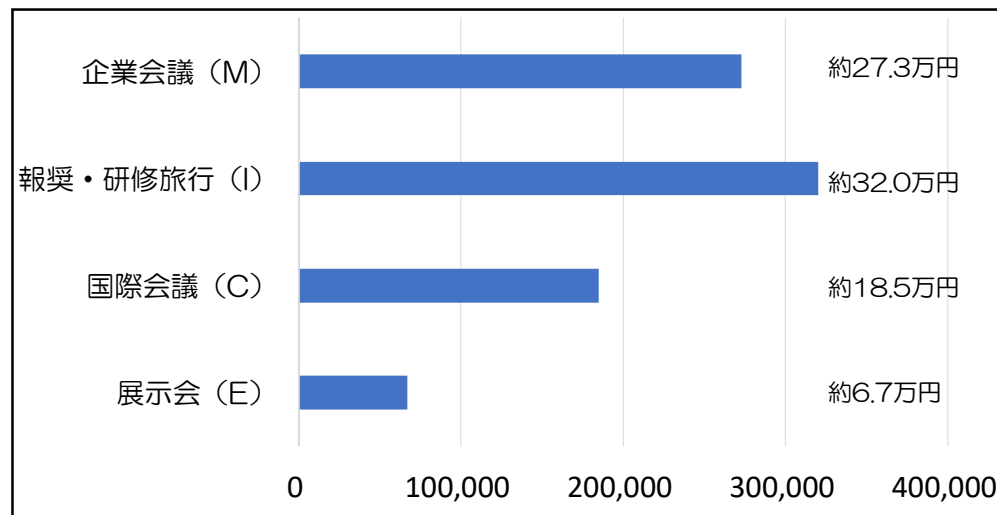
○ 国際MICE全体による経済波及効果の内訳（億円）



○ 国際MICE全体の総消費額の内訳（億円）



○ 国際MICEの1人当たり総消費額の比較



○ (参考) 経済波及効果

- 国際MICEによる経済波及効果 約1兆590億円
- 新たに生じた雇用創出効果 約96,000人分
- 誘発税収額 約820億円
- 外国人参加者1人当たりの平均消費額 約33.7万円 (航空賃込み)

【参考】

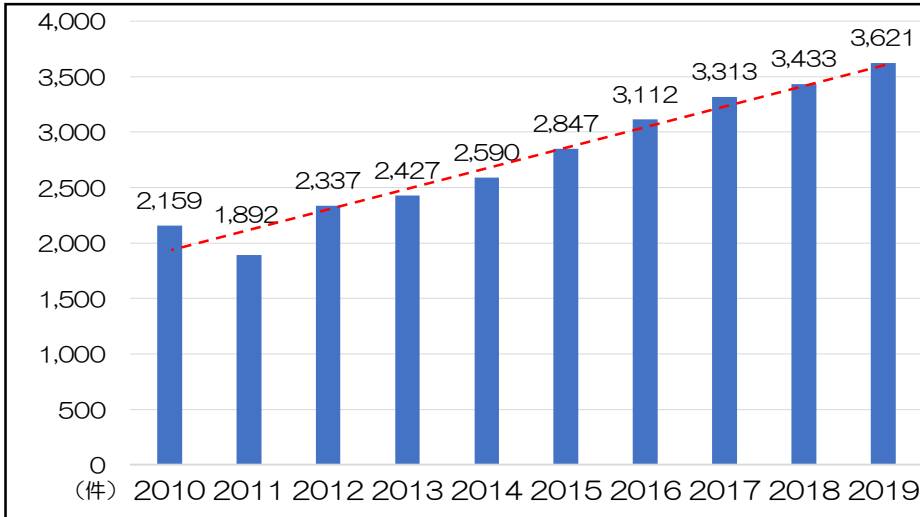
一般観光による訪日外国人1人当たりの平均消費額
約15.8万円
(2019年観光庁統計)

2 MICEを取り巻く現状 (4) 国内MICEの状況

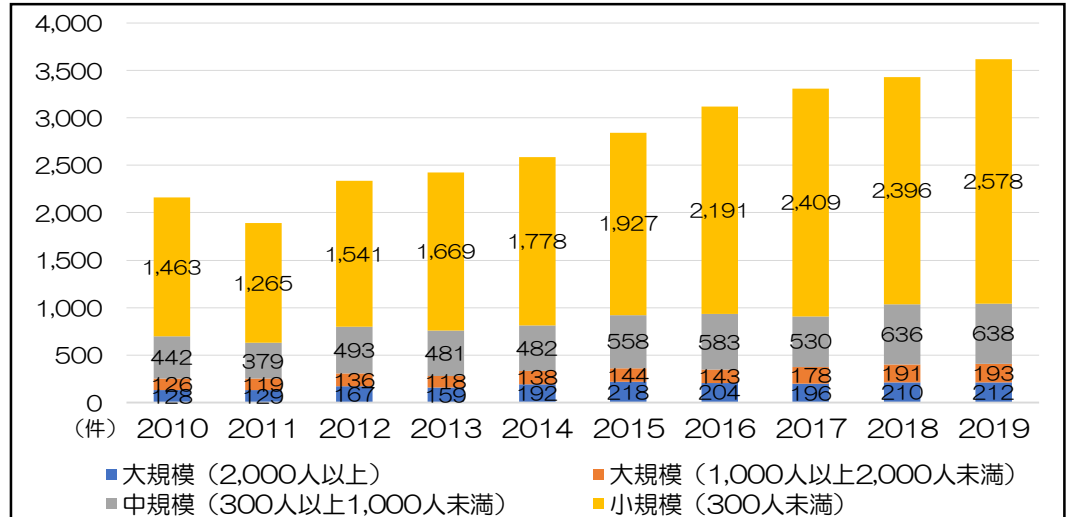
○ 日本国内の国際会議の傾向

- ▶ 新型コロナウイルス感染症拡大前において、国内で開催された国際会議の開催件数は、2011年に東日本大震災の影響によって一旦落ち込んだものの、その後速やかに回復し、増加傾向を維持している。
- ▶ 規模としては、300人未満の小規模会議の開催件数が全体の約7割を占めており、500人未満では国内の開催件数の約8割を占めている。

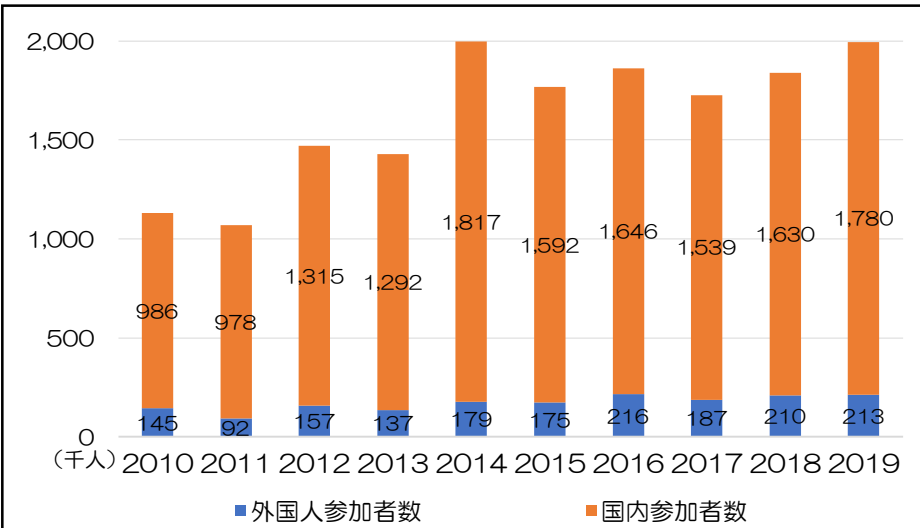
○ 国際会議の開催件数



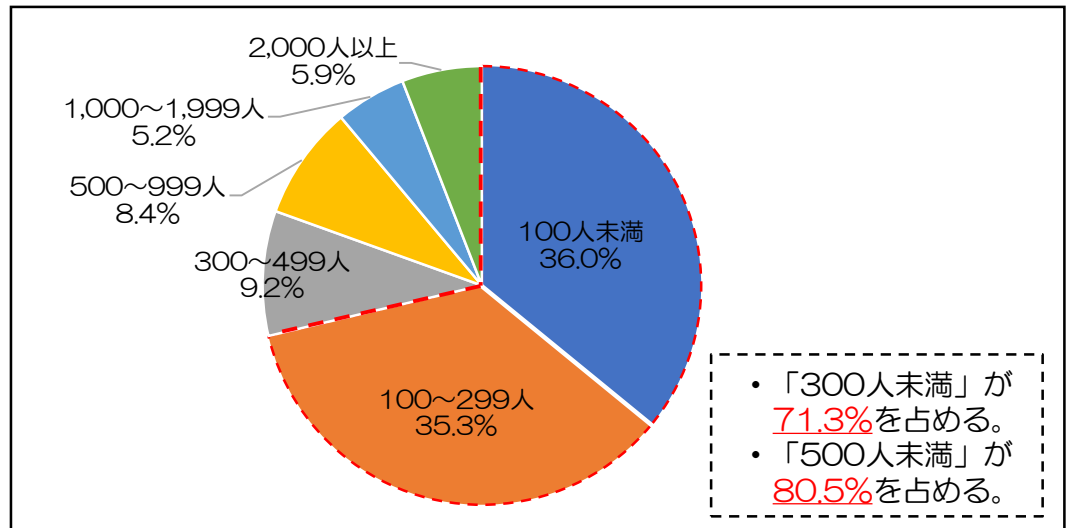
○ 国際会議の規模別開催件数



○ 国際会議の参加者数



○ 規模別開催件数の割合 (2019年)



2 MICEを取り巻く現状 (4) 国内MICEの状況

○ 日本国内の国際会議の傾向

- 分野別では「科学・技術・自然」が41.6%と最も多く、次いで「医学」が17.4%、「芸術・文化・教育」が13.3%の順となっている。
- 都市別では「東京（23区）」が最も多く、会場別では「神戸大学」が最も多く国際会議が開催されている。
- 宇都宮市が属する北関東3県の比較では、茨城県が最も多く国際会議が開催されており、栃木県が最も低い開催件数となっている。

○ 分野別開催件数（2019年）

分野	開催件数（件）	構成比（%）
政治・経済・法律	435	12.0
科学・技術・自然	1,507	41.6
医学	631	17.4
産業	163	4.5
芸術・文化・教育	481	13.3
社会	210	5.8
運輸・観光	33	0.9
社交・親善	32	0.9
宗教	11	0.3
スポーツ	37	1.0
その他	81	2.3
合計	3,621	100

○ 国内都市別国際会議開催件数（2019年）

順位	都市	開催件数（件）
1	東京（23区）	561
2	神戸市	438
3	京都市	383
4	福岡市	313
5	横浜市	277
6	名古屋市	252
7	大阪市	204
8	北九州市	150
9	仙台市	136
10	札幌市	102

【JNTO 国際会議の選定基準】
JNTOが公表している選定基準は以下のとおり

- 主催者：「国際機関、国際団体（各国支部を含む。）」又は「国家機関・国内団体」（各々の定義が明確ではないため、「公共色を帯びていない民間企業」以外はすべて）
- 参加者総数：50人以上
- 参加国数：日本を含む3居住国・地域以上
- 開催期間：1日以上

○ 会場別国際会議開催件数、参加者数（2019年）

順位	会場名	開催件数（件）	参加者数（人）	1件当たりの平均参加者総数（人）
1	神戸大学	218	22,771	104
2	パシフィコ横浜	180	266,958	1,483
3	京都大学	166	23,149	139
4	名古屋大学	119	19,645	165
5	九州大学	117	21,340	182
6	理化学研究所	89	7,928	89
7	東北大学	72	42,248	587
8	東京大学	68	16,115	237
9	国立京都国際会館	68	111,679	1,642
10	大阪大学	60	13,965	233

○ 北関東3県における国際会議開催件数

開催都市	2015	2016	2017	2018	2019	2019年参加者総数（人）
栃木県	0	1	0	0	0	
宇都宮市	0	0	0	0	0	0
那須町	0	1	0	0	0	0
茨城県	54	53	50	50	60	
つくば地区（※1）	53	50	47	42	54	26,325
水戸市	0	0	2	5	5	1,633
那珂市	1	3	1	3	1	79
群馬県	3	4	6	4	4	
前橋市	2	3	3	1	1	60
高崎市	0	1	1	1	0	0
桐生市	0	0	2	1	3	265
草津町	1	0	0	1	0	0

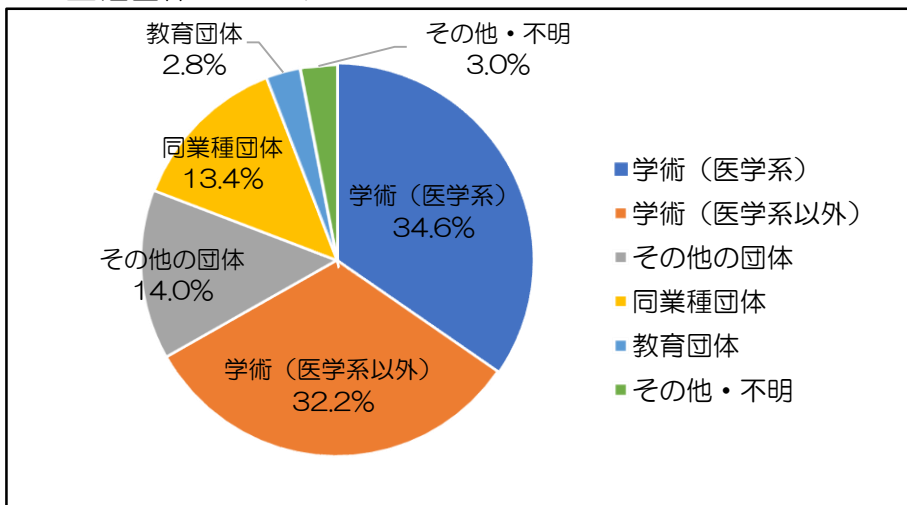
※1 「つくば地区」は、つくば市、土浦市を含む。 出典：JNTO「2019年国際会議統計」

2 MICEを取り巻く現状 (5) MICEの現状分析

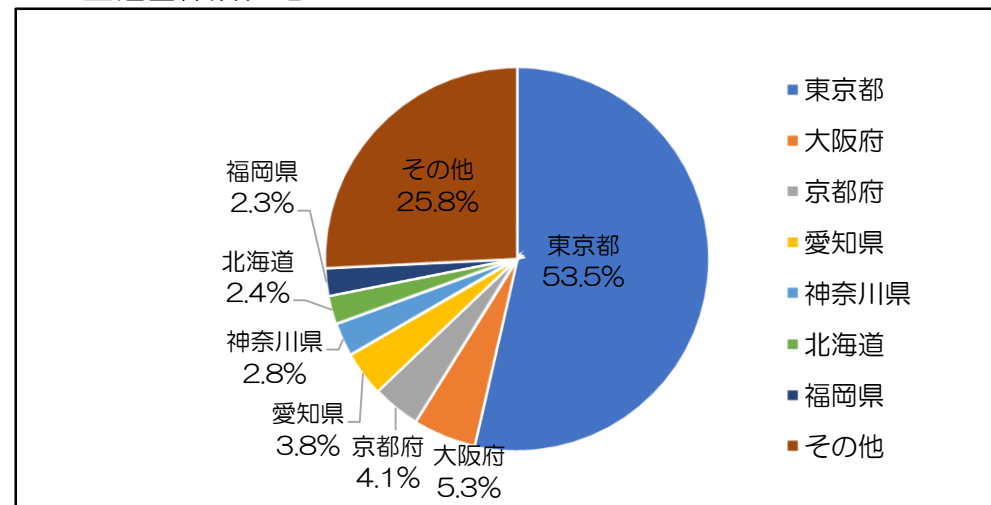
○ MICE市場におけるトレンド分析

- JCCB（一般社団法人コンgress・コンベンション・ビューロー）の調査結果を分析し、主催者の開催傾向等を確認する。
- 主催団体のうち、医学系が34.6%、医学系以外が32.2%であり、学術系合計は全体の3分の2を占めている。
- 主催団体の所在地は、東京都が全体の半数以上を占めており、他の道府県と比較して圧倒的に多くなっている。
- 開催規模では500人以下の中小規模の会議が全体の4分の3を占めている。一方で、3,000人超の大規模会議は4.2%にすぎない。
- 開催パターンは、規模が大きくなるにつれて「地方都市持ち回り」又は「首都圏/地方都市交互」の回答割合が高まる。

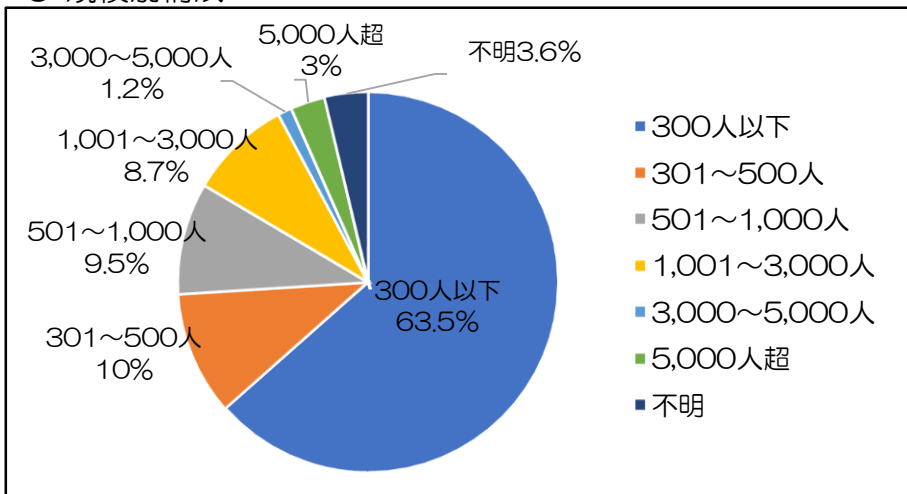
○ 主催団体プロフィール



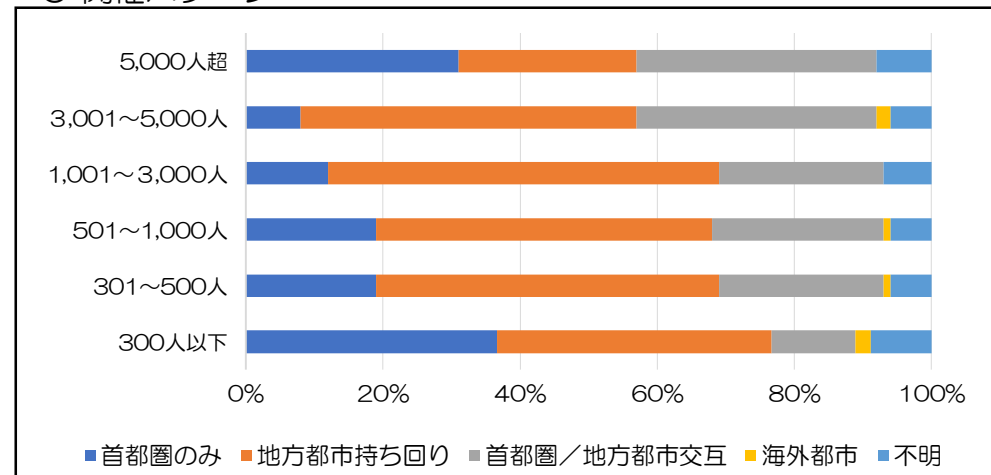
○ 主催団体所在地



○ 規模別構成



○ 開催パターン

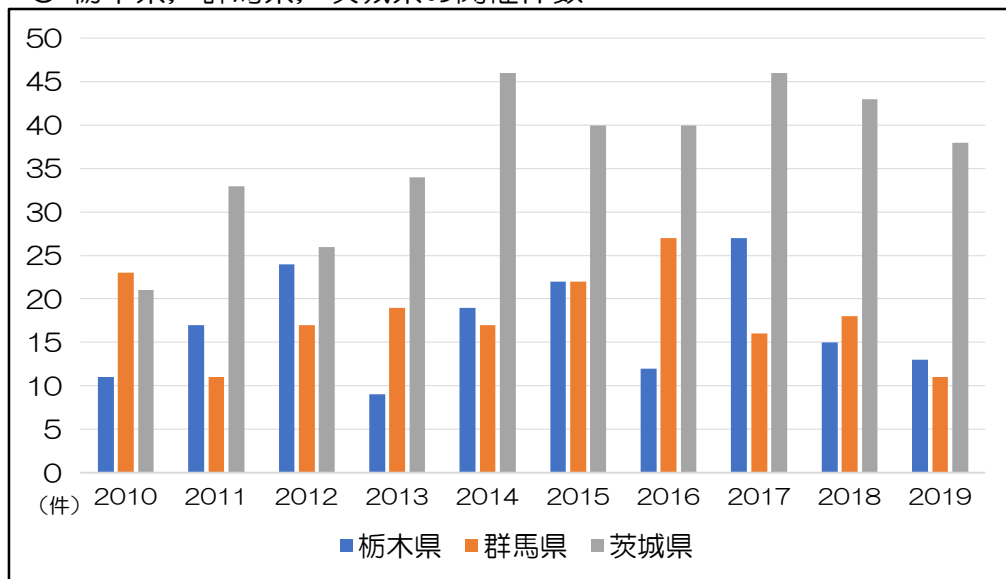


2 MICEを取り巻く現状 (5) MICEの現状分析

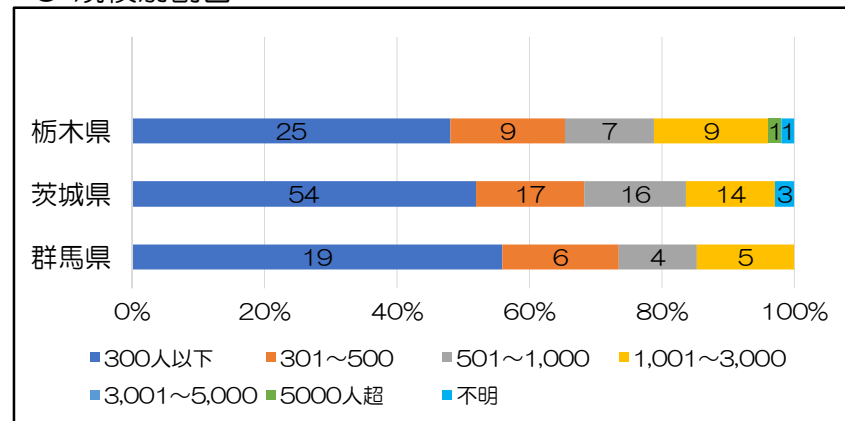
○ 北関東3県におけるトレンド分析

- JCCB（一般社団法人コンgress・コンベンション・ビューロー）の調査結果を分析し、北関東圏の開催傾向等を確認する。
- 北関東3県の開催件数では、茨城県が最も上回っている。これは、学術・研究都市として多くの研究機関が集積している、つくば市において多くの会議が開催されていることが理由としてあげられる。
- 会議の規模としては、各県とも300人以下の小規模会議の割合が半数前後を占めているが、大きな差異はない。
- 主催団体の傾向では、栃木県は学術に対する割合が相対的に高く、特に医学系の割合が高くなっている。これは、獨協医科大学や自治医科大学など、県内の医科大学の存在が栃木県の強みとして考えられる。

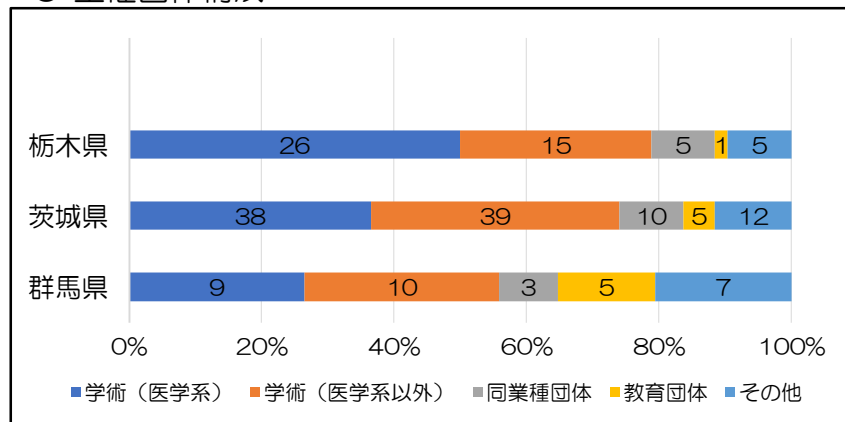
○ 栃木県、群馬県、茨城県の開催件数



○ 規模別割合



○ 主催団体構成



【JCCB Data Library】

JCCBが学会、協会等の会議主催者を対象に行う会議開催に関する調査。JNTOの国際会議統計とは異なり、中小規模の国内会議が対象に含まれる。また、開催地選定のパターンなどについて調査が行われており、主催者の傾向を分析する目的に適している。

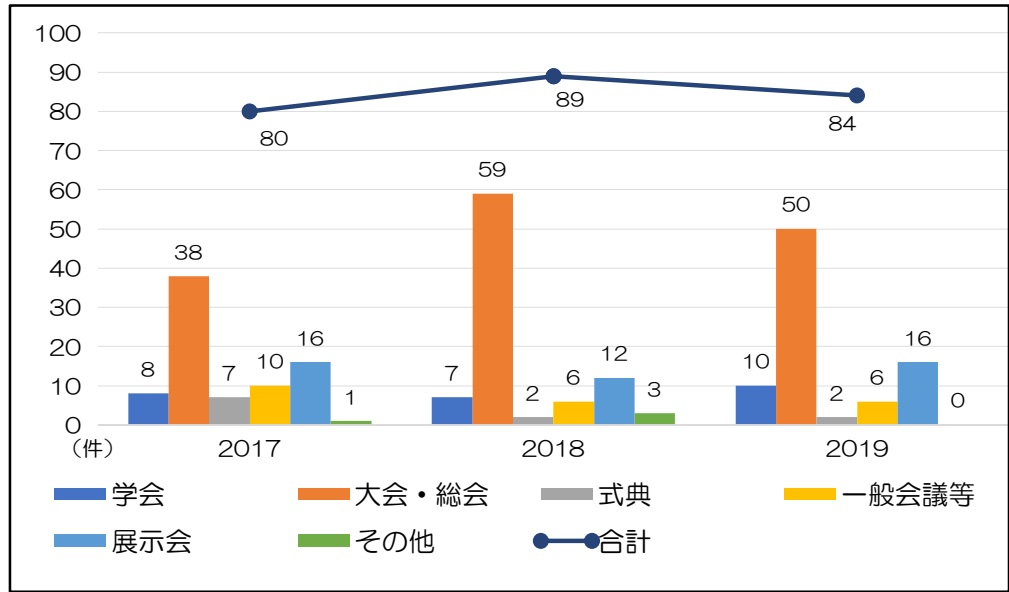
※ JCCBが有効回答として得ることができた回答をまとめたものでしかなく、MICE主催者すべてが網羅されたものではないことに留意が必要。

3 宇都宮市MICEの現状と課題 (1) 宇都宮市におけるMICEの現状

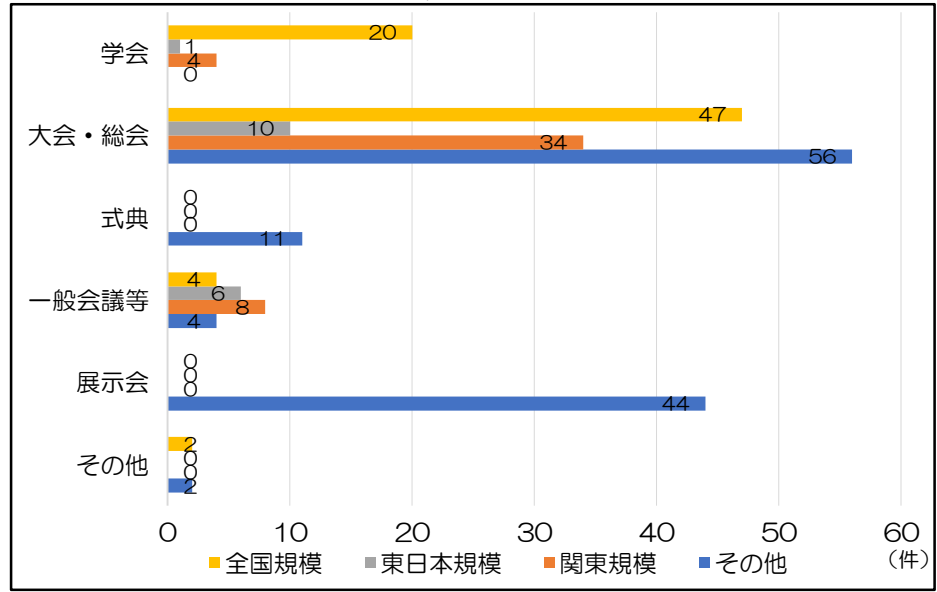
○ 宇都宮市における開催状況

- 種類別では、「大会・総会（企業及び団体の定期大会，総会等）」の開催件数が最も高くなっている。
- 催事の開催割合としては、「医学」が学会，大会・総会ともに最も高い割合を占めている。

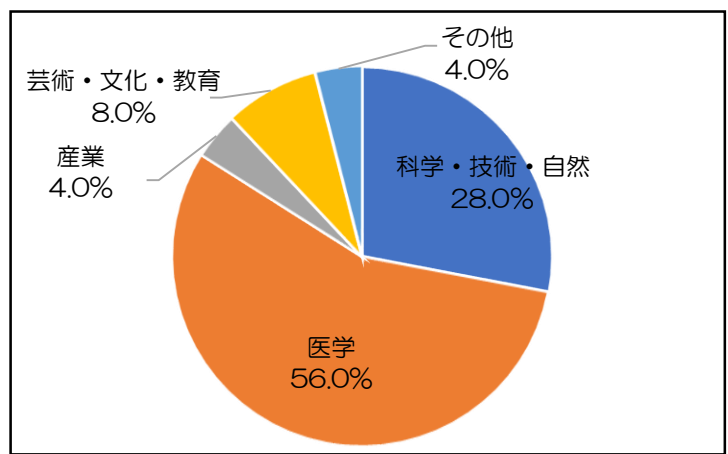
○ 宇都宮市における開催件数の推移



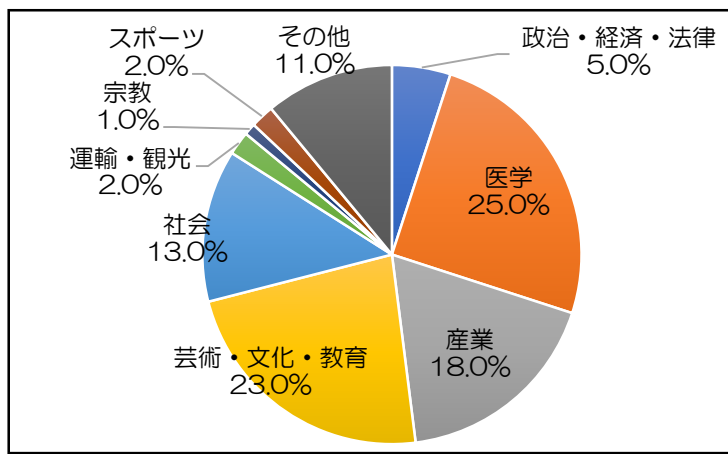
○ 宇都宮市における催事規模（3年合計）



○ 学会開催割合



○ 大会・総会開催割合

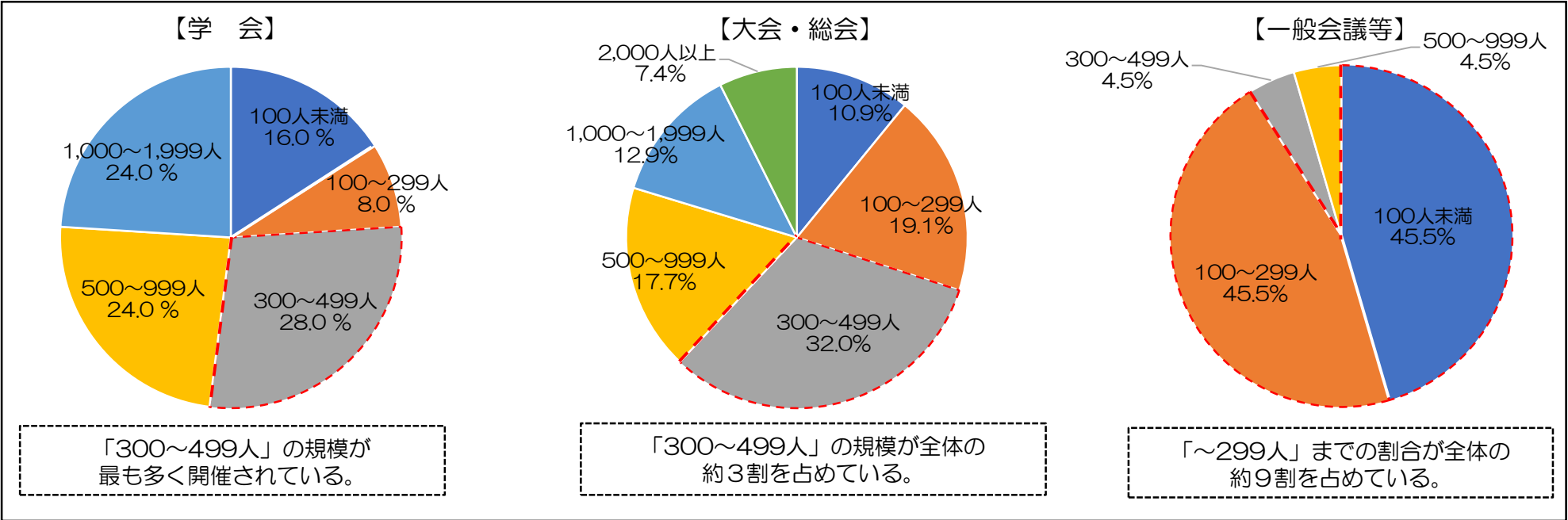


宇都宮市におけるMICE開催の状況を宇都宮観光コンベンション協会の開催支援実績から把握するものであり、宇都宮市で実際に開催されたMICEすべてが網羅されたものではないことに留意が必要。

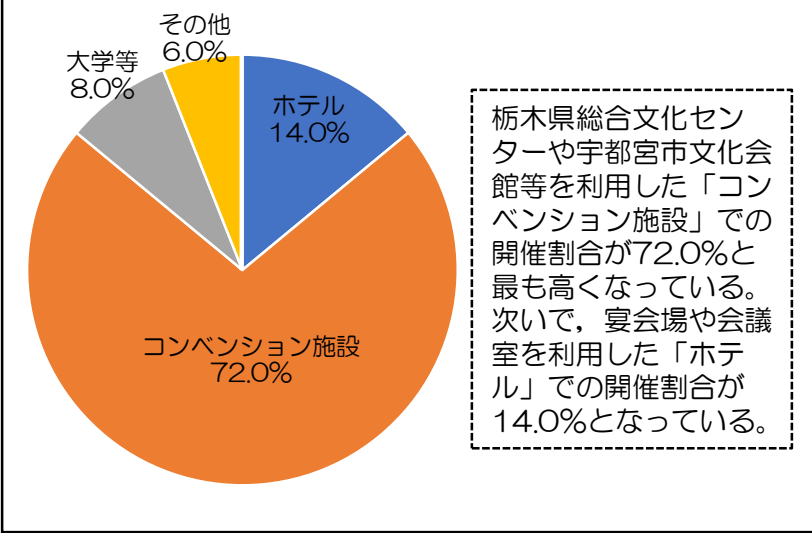
出典：宇都宮観光コンベンション協会「事業報告書」

3 宇都宮市MICEの現状と課題 (1) 宇都宮市におけるMICEの現状

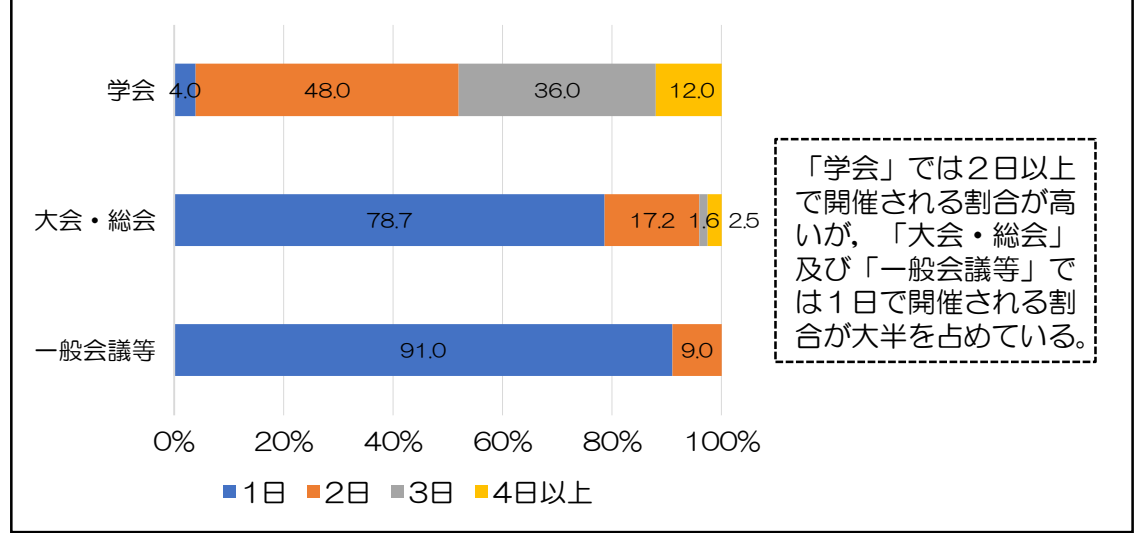
○ 催事別参加規模割合（3年平均）



○ 開催施設割合（3年平均）



○ 開催日数割合（3か年平均）



3 宇都宮市MICEの現状と課題 (1) 宇都宮市におけるMICEの現状

○ 宇都宮市におけるこれまでの取組

- 宇都宮市では、これまで、宇都宮観光コンベンション協会において、主催者に対する「開催支援」を中心に取り組んできた。
- また、2022年11月の宇都宮駅東口交流拠点施設の開業を契機に、より多くのMICEを本市へ誘致するため、関係団体や指定管理者等と連携を図りながら、主催者へのセールス活動や商談会への参加など、誘致活動の強化に取り組んでいる。

○ 開催支援の主な取組

① 参加者歓迎サポート

- ・ 歓迎看板やピラを用意し、駅や宿泊施設、観光案内所等で掲出
- ・ 宇都宮の魅力を発信できるバナースクリーンの貸出し

② コングレスバックや観光パンフレットの提供

- ・ オリジナルのコンgresバックや観光パンフレット、多言語MAP等を提供

③ アトラクションの紹介

- ・ 懇親会やレセプションパーティー等でのジャズライブやウェルカムカクテル、餃子の提供など各種アトラクションを紹介

④ お土産品販売コーナーの設置

- ・ 宇都宮を代表する餃子やその他地元の銘菓、地酒など、催事主催者の希望に応じた土産品を準備

○ 誘致活動の主な取組

① 催事主催者等に対する調査

- ・ 県内大学や県内外の協会・団体等の催事主催者に対する調査の実施
- ・ 市内施設に対する催事開催状況調査の実施

② 首都圏及び県内の催事主催者へのセールス活動

- ・ 首都圏の催事主催者等に対するセールス活動の実施
- ・ 県内の事務局支部や企業等へのセールス活動と関係性の構築

③ 国際MICEエキスポ（IME）への参加

- ・ 東京で開催される国内最大規模のMICE商談会に参加し、国内外の催事主催団体等と商談を実施
- ・ 宇都宮駅東口交流拠点施設をはじめ、市内施設の紹介やアフターコンベンション等の魅力をPR

④ テクニカルビジット（産業視察・工場見学・企業訪問等）受入先の開拓

- ・ 市内企業と連携したテクニカルビジットの開発
- ・ テクニカルビジットを踏まえたモデルコースの作成

⑤ プロモーションツールの充実

- ・ セールスツールとして宇都宮市のMICE情報を集約したパンフレットや専用ホームページを作成

3 宇都宮市MICEの現状と課題 (1) 宇都宮市におけるMICEの現状

○ 宇都宮市のMICE施設

- 宇都宮市内にはコンベンション開催に対応する施設が約30施設立地しており、シアター形式で1,000人以上収容可能な大型施設が6施設、500人以上～1,000人未満規模の施設が6施設存在する。
- 宇都宮市文化会館と栃木県総合文化センターは共に文化施設であるが、各施設とも会議室を4～5室保有しており、練習室やギャラリー等を加えることによって分科会の多い学会等にも対応可能となっている。
- 2022年に開業する宇都宮駅東口交流拠点施設では、2,000人収容可能な大ホールをはじめ、関東近県にはない諸室構成となっており、主に学術会議や大会等の会議のほか、企業系会議や展示会・イベントなど、幅広い催事での利用が可能となっている。
- ホール・バンケット等については、舞台とそれを望む階段状の固定席からなる「劇場型」と多様な形態での利用が可能な「平土間型」の両施設が市内に立地している。

○ 会議室、展示施設（ホール・会議室規模別）

● 1,000人以上

施設名		面積	スクール	シアター	駐車場
宇都宮駅東口交流拠点施設	大ホール	1,882㎡	1,152人	2,000人	—
宇都宮市文化会館	大ホール	—	—	2,000人	838台
栃木県総合文化センター	メインホール	—	—	1,604人	32台
マロニエプラザ	大展示場	2,665㎡	2,187人	3,168人	500台
ホテル東日本宇都宮	大和	954㎡	600人	1,300人	500台
栃木県教育会館	大ホール	2,028㎡	—	1,026人	500台

● 500人以上～1,000人以上

施設名		面積	スクール	シアター	駐車場
宇都宮駅東口交流拠点施設	中ホール	649㎡	360人	702人	—
宇都宮市文化会館	小ホール	—	—	500人	838台
栃木県総合文化センター	サブホール	—	—	505人	31台
清原工業団地管理センター	大ホール	751㎡	500人	—	68台
ホテルニューイタヤ	天平の間	540㎡	400人	500人	200台
宇都宮東武ホテルグランデ	松柏	540㎡	336人	510人	86台
	龍田	473㎡	336人	510人	86台

3 宇都宮市MICEの現状と課題 (1) 宇都宮市におけるMICEの現状

○ 宇都宮市のMICE施設の立地状況

- 宇都宮市内の主なMICE施設（会議場、展示場、ホテル等）については、その大半がJR宇都宮駅の西側に立地している。
- 既存のMICE施設は、ゾーニングされておらず、離散的に立地していることから、徒歩による施設間の移動が困難であり、車でも数十分を要する場合がある。



複数会場の利用が想定される数千人規模の大型MICE（特に分科会の多い学会）の誘致においては、二次交通による周遊向上のための連携を図ることで対応している。

3 宇都宮市MICEの現状と課題 (1) 宇都宮市におけるMICEの現状

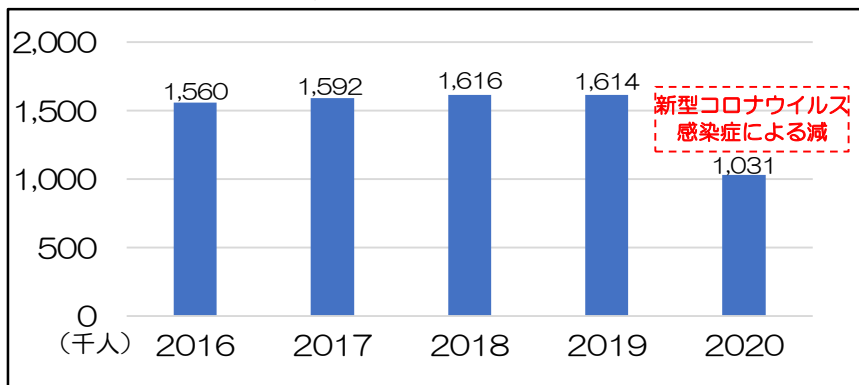
○ 宇都宮市内のホテルの状況

- 宇都宮市において営業許可を受けている旅館・ホテルは、120施設（2022年1月時点）となっている（宇都宮市「旅館営業許可施設一覧（保健・健康・衛生関係情報）」）。
- このうち、宇都宮市においては、多くのホテルが宿泊を中心としたビジネスホテルであり、宴会場・会議室を備えたホテルは5施設となっている。
- 国際会議の場合には、外国語対応などの受入態勢が求められるほか、医学・医療系の学会を中心にVIP対応が必要となるため、ラグジュアリークラスを含む多様なグレードのホテル・客室が必要となる。
- 各都市の宿泊収容能力がMICE誘致の制約となる場合が多いことから、MICE誘致を進めていくためにホテル誘致を行う都市もある。

○ 宴会場・会議室を備えるホテル

ホテル	客室総数	定員数
ホテル ニューイタヤ	230室	271人
チサンホテル宇都宮	209室	430人
宇都宮東武ホテルグランデ	148室	194人
栃木県青年会館	39室	190人
ホテル東日本宇都宮	115室	182人

○ 市内宿泊者数の推移



大型MICEの誘致においては、規模とバリエーションの両面でやや不足していると考えられる。

○ (参考) ホテル分類

分類	MICEにおける役割
バンケット・会議室あり (最大収容数100名以上)	<ul style="list-style-type: none"> ・ホテル単独でのMICE開催が可能 ・近隣の施設と連携による分科会の受入れが可能 ・レセプション等におけるパーティー会場としての利用が可能 ・大規模なバンケット、会議室、レストラン、スイートルーム等を有するホテルでは、国際会議等でのVIP受入れが可能 ・近隣施設でのMICE開催時の宿泊受入れが可能
バンケット・会議室あり (最大収容100名以下)	<ul style="list-style-type: none"> ・ホテル単独での小規模MICE開催が可能 ・近隣の施設と連携による分科会の受入れが可能 ・近隣施設でのMICE開催時の宿泊受入れが可能
バンケット・会議室なし	近隣施設でのMICE開催時の宿泊受入れが可能

3 宇都宮市MICEの現状と課題 (2) 宇都宮市におけるMICEの強み

【アクセス】

- MICEは、人の交流を促すものであり、開催される都市のアクセス性は極めて重要な要素と言える。
- 宇都宮市へのアクセスについて、東京駅、羽田空港、成田空港、仙台駅の4地点からの所要時間については、以下のとおりとなっている。

○ 宇都宮駅へのアクセス時間

	電車		道路	
	路線	所要時間	路線	所要時間(距離)
東京駅	東北新幹線	約50分	東北自動車道	約140分 (135km)
羽田空港	東京モノレール/山手線・京浜東北線/東北新幹線	約100分	東北自動車道/東北縦貫道路	約140分 (158km)
成田空港	リムジンバス 東北新幹線	約140分	首都圏中央連絡自動車通/常磐自動車道 /北関東自動車道	約120分 (151km)
仙台駅	東北新幹線	約70分	東北縦貫自動車道/ 東北自動車通	約200分 (251km)

○ (参考) つくば市へのアクセス

	電車		道路	
	路線	所要時間	路線	所要時間(距離)
東京駅	山手線/京浜東北線 つくばエクスプレス	約80分	常磐自動車道	約70分 (77.1km)
羽田空港	東京モノレール 山手線/京浜東北線 東北新幹線	約100分	首都高速湾岸線 常磐自動車道	約80分 (95.1km)
成田空港	京成成田スカイアクセス/ 武蔵野線/ つくばエクスプレス	約90分	首都圏中央連絡 自動車道/国道 468号	約50分 (55.3km)
仙台駅	東北新幹線/常磐線/ 上野東京ライン/ つくばエクスプレス	約190分	常磐自動車道	約230分 (293km)

○ (参考) 高崎市へのアクセス

	電車		道路	
	路線	所要時間	路線	所要時間(距離)
東京駅	北率・上越新幹線	約70分	関越自動車道	約100分 (121km)
羽田空港	東京モノレール 山手線/京浜東北線 北陸新幹線	約110分	関越自動車道	約120分 (140km)
成田空港	京成スカイライナー/ 北陸・上越新幹線	約120分	関越自動車道	約150分 (185km)
仙台駅	東北新幹線/ 北陸・上越新幹線	約120分	東北縦貫自動車道/ 東北自動車道	約250分 (339km)

東京方面からのアクセスについては、電車の場合は宇都宮市が最も有利であり、車の場合はつくば市が最も有利となる。
東北方面からのアクセスについては、東北新幹線/秋田新幹線が利用できる宇都宮市が最も有利である一方で、甲信越方面からのアクセスは高崎市が優位になることが予想される。

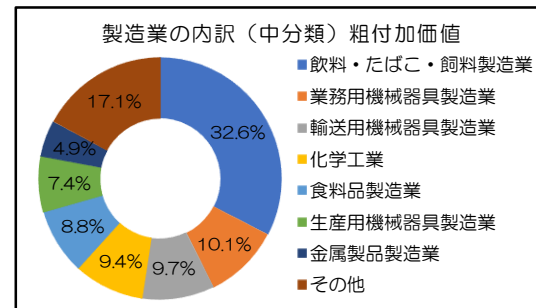
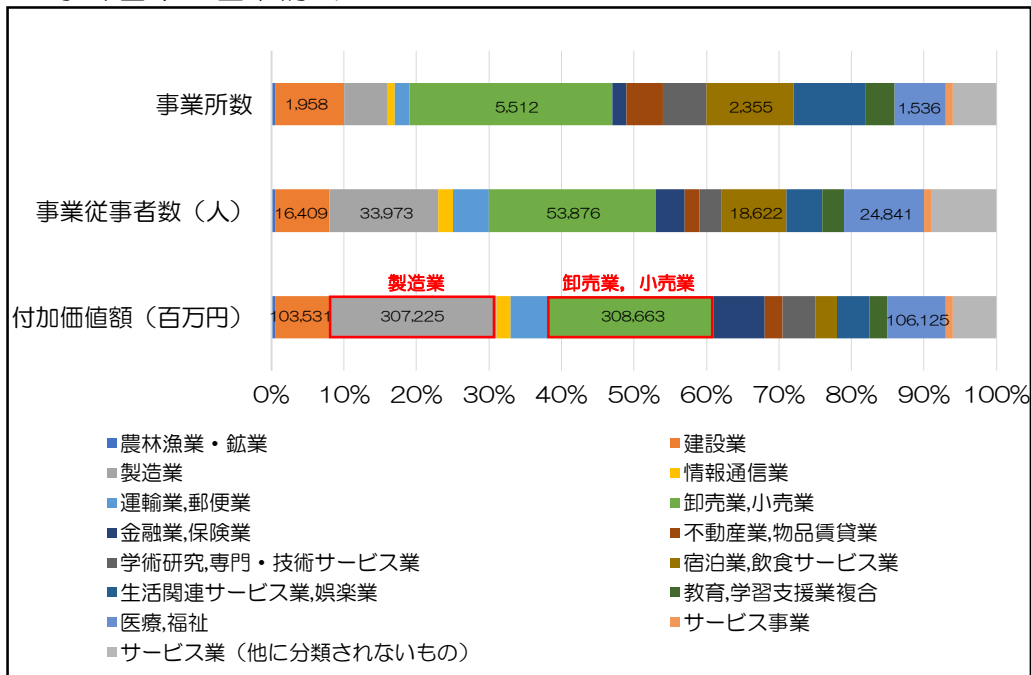
このため、MICEの誘致ターゲットは、「東北方面は宇都宮市」、「上越北陸方面は高崎市」という需要が想定される。

3 宇都宮市MICEの現状と課題 (2) 宇都宮市におけるMICEの強み

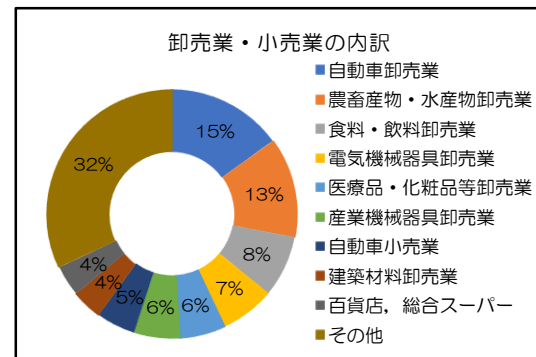
【地域産業】

- MICEを推進する目的として、近年、「都市の成長戦略」としてのMICEの役割が注目されてきている。
- 国内の多くのMICE都市において、各都市の産業基盤及び産業ビジョンに沿ったテーマ性によってMICE誘致を進めており、MICEと地域産業の人的・技術的交流を促すことにより、ビジネスマッチングやイノベーション機会の創出を狙っている。
- 特定分野の産業集積度が高い都市は、同分野に関連したMICEを誘致するうえで有利となることから、地域産業の特性によって誘致すべきMICEが規定される面がある。

○ 宇都宮市の産業構成



「飲料・たばこ・飼料製造業」が全体の3割以上を占めており特徴的。「業務用機械器具 (10.1%)」や「輸送用機械器具 (9.7%)」の割合も高く、宇都宮市の強みの分野と言える。



製造業においてシェアの高い「自動車 (輸送用機械)」, 「食料・飲料」, 「産業機械器具」に関連した業種が、卸売業・小売業でも傾向として強くなっている。

○ 重点テーマと具体的な分野

テーマ	具体的な分野 (候補)
次世代モビリティ関連産業	航空宇宙, 自動車, ロボット, 情報通信
LRT関連産業	LRT車両, 部品製造
環境・エネルギー	水素・燃料電池, 環境技術, 環境経営, 熱供給システム
健康福祉	医療機器, ロボット, 介護テクノロジー
生産性向上	ICT技術の一次産業への応用 (スマート農業/畜産業)
地域資源の有効活用	果樹栽培, 自転車スポーツ, 大谷石 (建築石材工業)

MICEは、都市のビジョンを実現するための手段として位置づけることが可能であることから、産業ビジョンにおける重点分野が誘致戦略上の重点分野となり得る。

そのため、「うつのみや産業振興ビジョン」において重視されている分野が候補の一つとしてあげられる。

3 宇都宮市MICEの現状と課題 (2) 宇都宮市におけるMICEの強み

【学術研究】

- 栃木県内には国立大学法人宇都宮大学をはじめ、計9大学が立地している。
- 特に、国立大学は各都市の学術の中心的存在であるため、学会主催者に対してのニーズを把握し、連携を密に図る必要がある。

○ 栃木県内に立地する大学（短期大学を除く。）

大学	所在地	学部・研究科
宇都宮大学	宇都宮	(大学) 地域デザイン科学部/国際学部/共同教育学部/工学部/農学部 (大学院) 地方創生科学研究科/教育学研究科/東京農工大学大学院連合農学研究科
宇都宮共和大学	宇都宮	(大学) シティライフ学部/子ども生活学部
作新学院大学	宇都宮	(大学) 経営学部/総合政策学部/人間化学部 (大学院) 経営学研究科/心理学研究科
文星芸術大学	宇都宮	(大学) 美術学部 (大学院) 芸術研究科
国際医療福祉大学 大田原キャンパス	大田原	(大学) 保健医療学部/医療福祉学部/薬学部 (大学院) 医療福祉学研究科/薬学研究科/薬科学研究科/医学研究科
自治医科大学	下野	(大医) 医学部/看護学部 (大学科) 医学研究科/看護学研究科
獨協医科大学	壬生	(大医) 医学部/看護学部 (大学科) 医学研究科/看護学研究科
白鷗大学	小山	(大学) 経営学部/法学部/教育学部 (大学院) 経営学研究科/法学研究科
足利大学	足利	(大学) 工学部/看護学部 (大学院) 工学研究科
研究機関	所在地	研究分野
地方独立行政法人 栃木県立がんセンター	宇都宮	統括診療部（血液内科，消化器内科，呼吸器内科等），統括技術部（放射線技術科，検査技術科等），薬剤部，看護部，がん予防情報相談部

「医学・医療分野」においては、栃木県内に国際医療福祉大学、自治医科大学、獨協医科大学、研究機関である栃木県立がんセンターが立地していることから、医学・医療分野の学会を誘致するために必要な土壌が備わっていると言える。

3 宇都宮市MICEの現状と課題 (2) 宇都宮市におけるMICEの強み

【都市インフラ】

- 宇都宮市は、少子高齢化・人口減少社会、地球環境問題等の問題へ対応しつつ持続可能な発展を目指す「ネットワーク型コンパクトシティ」をまちづくりのビジョンとして掲げ、全国に先駆けて観光、交通、環境など様々な分野で先進的な取組を推進している。
- また、人の移動や消費行動などのデータを効率的なエネルギー利用や公共交通の運行に活用するなど、新たな価値を創出し、市民の日常生活や企業活動などのあらゆる分野において、「地域共生型スマートシティ」の形成に向けた取組が進められている。

○ ネットワーク型コンパクトシティの全体像



○ スマートシティうつのみやの全体像



○ 宇都宮市における先進的取組

- ・ JR宇都宮駅の東口地区において低炭素なエネルギー供給システムの整備に取り組んでいる。
- ・ 清原工業団地においては、全国初の「工場間一体省エネルギー事業」を進めている。
- ・ 再生可能エネルギーの地産地消による低炭素化を目的に、2021年に県内初の地域新電力会社「宇都宮ライトパワー」を設立。
- ・ 大谷地域では、採石跡の巨大地下空間といった地域資源等に根差した世界に通用する観光地づくりを進めている。

○ (参考) スマートシティとは

国土交通省は、「都市が抱える諸問題に対して、ICT等の新技術を活用しつつ、マネジメント(計画・整備・管理・運営)が行われ、全体最適化が図られる持続可能な都市又は地区」と定義

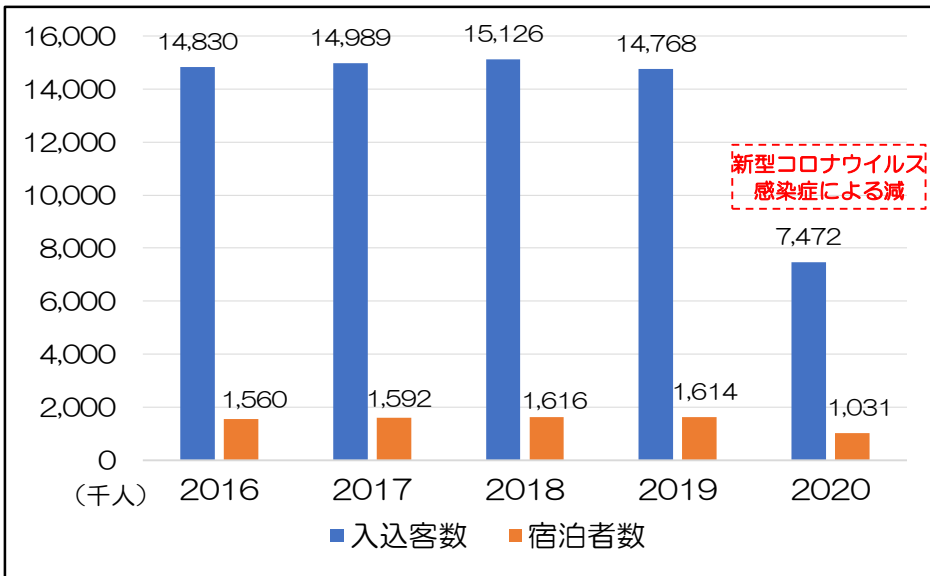
都市機能と各拠点(地域拠点、産業拠点、観光拠点)をネットワークで結ぶ都市構想は、宇都宮市と同様にコンパクトシティを目指している国内各地方都市の注目を集める可能性が高く、都市開発をテーマとしたMICEについても誘致できる可能性がある。

3 宇都宮市MICEの現状と課題 (2) 宇都宮市におけるMICEの強み

【観光資源】

- エクスカーションやアトラクション等の要素は、開催地の経済効果拡大ばかりでなく、MICE参加者の満足度向上に貢献することから、主催者によっては非常に重要視される要素と言える。
- MICE誘致を優位に進めるためには、観光に関する魅力的な提案が有効であり、多くの都市においてMICE向けの観光資源開発やコンテンツの開発が進められている。

○ 宇都宮市の入込客数及び宿泊者数の推移



入込客数、宿泊者数ともに総じて右肩上がり推移しているものの、宿泊者数は入込客数の約10分の1の水準にとどまっている。

○ 宇都宮市の主要な観光資源

カテゴリ	主な観光資源
I 自然	ハイキング（古賀志山，多気山，羽黒山等），大谷石，日光街道桜並木，ロウバイ（羽黒山），つつじ（八幡山公園），大イチョウ
II 食	宇都宮餃子，BAR（カクテル），宇都宮やきそば，道の駅うつのみやろまんちっく村，果樹園（ベジフル街道），大谷石造りのレストラン&カフェ，地ビール（宇都宮ブルワリー等）
III 歴史・文化	大谷石文化（日本遺産），宇都宮二荒山神社，松が峰教会，宇都宮美術館，栃木県立美術館，栃木県立博物館，大谷観音・大谷寺，平和観音，伝統芸能（獅子舞，太々神楽）
IV スポーツ・アウトドア	ジャパンカップ・サイクルロードレース，3x3，宇都宮ブリッツェン，宇都宮ブレックス（B-LEAGUE），栃木SC，サイクリング，パラグライダースクール
V イベント・祭り	初市（上河原通り），さくら祭り（宇都宮城址公園他），ふるさと宮まつり，うつのみや花火大会，フェスタin大谷，宇都宮餃子祭り
VI 都市・産業	工場見学・体験（中川染工場，カルビー清原工場，アキモなど），JAZZクラブ・ライブハウス，協同組合宇都宮餃子会，宇都宮ジャズ協会，宇都宮カクテル倶楽部

宇都宮市の観光資源は豊富であり、栃木県のいちご、宇都宮市の餃子、大谷石は全国的にも高いブランド力があることから、これらの資源を活用することによって、競争力の高いコンテンツの開発が期待できる。

また、JAZZやカクテルなどのナイトタイムコンテンツも充実しており、JAZZやカクテルは男女を問わず幅広い年齢から好まれる分野であり、MICE向けにも有望な資源として期待できる。

他にも、宇都宮市は、桜並木などの自然、宇都宮二荒山神社などの文化財、近年人気が高いアウトドア・スポーツなど様々な分野で資源を有しており、バラエティーに富んでいる。

これらの資源のうち、複数の資源を組み合わせることによって、宇都宮市の魅力を多面的に訴求することが可能である。

3 宇都宮市MICEの現状と課題 (3) 自都市分析

○ 宇都宮市における現状と考察

➤ 宇都宮市におけるMICEの現状を分析し、課題の導出に向けた考察を実施する。

項目		現状	考察
開催内容	件数の推移 開催傾向	<ul style="list-style-type: none"> 過去3年間の本市の年間平均開催件数は84件となっており、そのうち、「大会・総会」の占める割合が58.1%と最も高い。 開催規模としては「500人以下」の割合が最も高く、「学会」では52.0%「大会・総会」では62.0%となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 宇都宮駅東口交流拠点施設の開館や積極的な誘致活動の強化により、これまで以上に多くのMICEが本市で開催されることが見込まれる。 「500人以下」のMICEは全国的にも約8割を占めるポリュームゾーンでもあり、同規模のうち、本市の強み等を活かした分野へのアプローチが効果的であると考えられる。
	開催施設	<ul style="list-style-type: none"> 栃木県総合文化センターや宇都宮市総合文化会館を利用した「コンベンション施設」での開催が約7割を占めている。 次いで、宴会場や会議室を利用した「ホテル」での開催となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> コンベンション施設はもとより、ホテルと連携した誘致活動を推進することも効果的だと考えられる。
	開催日数	<ul style="list-style-type: none"> 「大会・総会」では1日で開催される割合が78.7%、「学会」では2日の割合が48.0%と、それぞれ最も高くなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 短日での開催割合が高いことから、経済波及効果を高めるためには、アフターコンベンションの充実等により消費単価を高める必要がある。
アクセシビリティ	<ul style="list-style-type: none"> 東京駅から新幹線利用で50分、仙台から65分のアクセス 羽田空港から電車100分（車140分）、成田空港から電車140分（車120分）のアクセス 【参考】つくば市へのアクセス（東京から80分・仙台から190分） 高崎市へのアクセス（東京から70分・仙台から120分） 	<ul style="list-style-type: none"> 地方都市の会議場としては大都市圏からの優れたアクセシビリティを有している一方で、空港からのアクセスについては、空港経由のMICE参加者にとって負担感が生じる可能性がある。 首都圏等からのアクセシビリティの良さゆえに、宿泊につながらず日帰りでの参加となり、経済効果が広く波及しない懸念がある。 	
地域産業	<ul style="list-style-type: none"> 産業における重点分野が明確に示されている。特に、製造業では、「たばこ・飼料」、「業務用機械器具」、「輸送用機械器具」に強みを有している。 また、学術研究において強みを有する医療系企業が立地している。 【参考】粗付加価値額の内訳（平成28年経済センサス活動調査より）飲料・たばこ・飼料32.6%、業務用機械器具10.1%、輸送用機械器具9.7% 	<ul style="list-style-type: none"> 宇都宮市の産業の強みや特徴を活かしたMICE戦略を立てることにより、競合都市との差別化が図られる可能性がある。 	
学術研究	<ul style="list-style-type: none"> 県内には国際医療福祉大学、自治医科大学、獨協医科大学など複数の医療系大学が立地しており、医療分野の学会を既に市内で誘致・開催している。 宇都宮大学においては工学、農学、教育研究に強みがあるが、同大学との連携が少ない。【参考】栃木県内に立地する大学数 9大学 	<ul style="list-style-type: none"> 宇都宮大学において多くの学会が開催されているわけではないが、国立大学は都市の学術の中心的存在であるため、大学と連携したMICE誘致の可能性が考えられる。 	
都市インフラ	<ul style="list-style-type: none"> ネットワーク型コンパクトシティをビジョンに掲げ、拠点間の交通システムの整備を進めている。 飲食店等が集積する東武宇都宮駅周辺とJR宇都宮駅との間に距離がある。 都市の宿泊収容能力（規模）は約8,000人であり、シングル・ツインが大多数を占めている。 【参考】つくば市の宿泊収容能力約5,000人、高崎市の宿泊収容能力約5,000人 	<ul style="list-style-type: none"> コンパクトシティの形成を目指している国内地方都市から注目を集める可能性が高く、都市開発をテーマとしたMICEに対し活用の可能性がある。 観光消費等がJR宇都宮駅周辺で完結し、経済効果が広く波及しない懸念がある。 国際会議では医学・医療系の学会を中心にVIP対応が必要であることから、国際会議の誘致において弊害となる可能性がある。 	
MICE施設	<ul style="list-style-type: none"> 既存の大型施設として宇都宮市文化会館や栃木県総合文化センター、マロニエプラザ等が立地。このほか、MICE施設として利用可能なホテルのバンケットが5つ存在 駅直結のコンベンション施設である宇都宮駅東口交流拠点施設が新たに供用開始 既存のMICE施設は離散して立地しており、コンベンションゾーンとして形成されていないが、二次交通による周遊向上のための連携が図られている。 	<ul style="list-style-type: none"> 駅直結の全国有数の利便性を活かし、新たな催事需要を取り込むことで、多くのMICEの開催が可能となる。 徒歩による施設間の移動が困難であることから、数千人規模の大型MICE（特に分科会の多い学会）の誘致には不利が予想される。 	
観光資源	<ul style="list-style-type: none"> “餃子”の知名度が群を抜いているが、大谷石やいちごなどの観光資源も有する。 豊富な観光資源がMICE向けに積極的に活用されていない。 世界遺産の日光東照宮や足利フラワーパークなど、近隣に知名度の高い観光資源が立地している。 【参考】観光資源の市外における認知度 餃子：53.9%、大谷石：26.1% 	<ul style="list-style-type: none"> 既存の観光資源はMICE活用を想定していないため、磨き上げにより、MICEの誘致・開催を有効に進める仕掛けとなることが考えられる。 観光資源のうち、複数の資源を組み合わせることで、宇都宮市の魅力を多面的に訴求することが可能と考えられる。 	
推進体制	<ul style="list-style-type: none"> MICEの推進体制は本格的な構築を今後行う段階であり、確立されていない。 市内事業者や市民におけるMICEの意義や政策の方向性に対する理解・意識の浸透はこれから行っていく段階である。 宇都宮観光コンベンション協会にMICE専従職員がおらず、ノウハウが蓄積されていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 関係団体や事業者等のステークホルダーと協働で宇都宮市としての推進体制を確立し、MICEの推進に取り組むことで、新たな催事の獲得など、開催地としての認知度向上が見込まれる。 	

○ 宇都宮市におけるMICEの課題

➤ これまでのMICEにおける取組状況や現状分析等を踏まえ、宇都宮市のMICE推進における課題として以下の点などがあげられる。

課題1： 戦略的な誘致施策の推進

重点分野や強みを有する分野など、宇都宮市MICEにおける重点誘致ターゲットの明確化が図られていないことから、戦略的な誘致活動が展開できていない。

宇都宮市MICEにおける誘致ターゲットの明確化を図るとともに、独自性のある誘致策を展開する必要がある。

課題2： 宇都宮の資源の有効活用

現時点では、宇都宮市の持つ優位性やその他多くの資源においてMICE利用を想定していない。

MICEに活用できる強み等を有効活用するとともに、地域内での消費額を高める仕組み・仕掛けを講じる必要がある。

課題3： 推進体制の構築

MICE獲得に向け関係団体等が一丸となった推進体制が構築されていない。

既存組織等の機能強化とステークホルダーとの連携による、宇都宮市としてのMICE推進体制を確立する必要がある。

課題4： 提案力のある人材の育成・確保

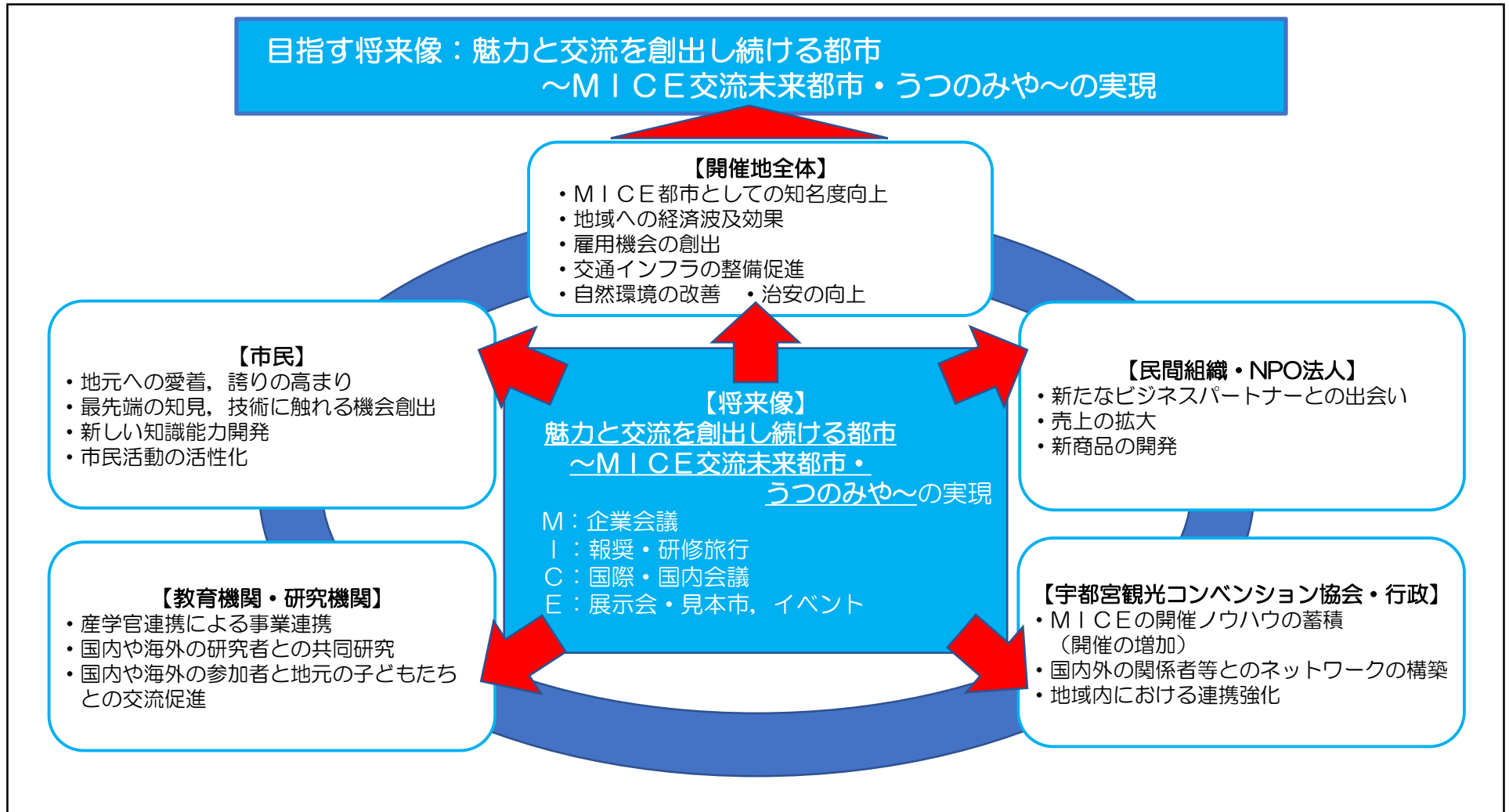
宇都宮市におけるMICEの理解度は浸透段階であることから、主催者に対して提案力を持った人材は、現時点では乏しい。

MICE推進の実務に求められる専門性を持った人材の育成と確保に努める必要がある。

4 宇都宮市MICE戦略 (1) 目指す将来像

○ 目指す将来像

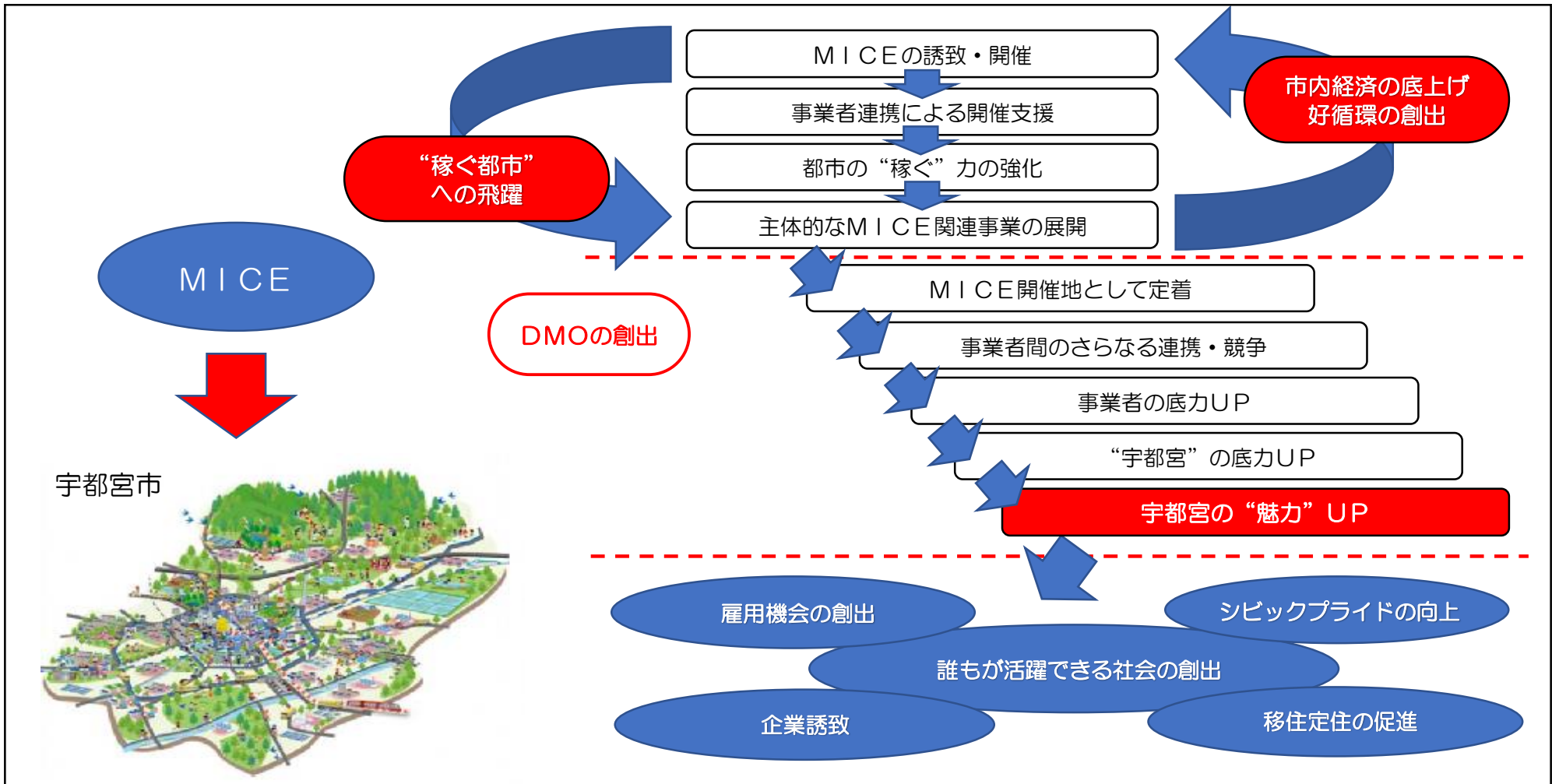
- 国内外においてMICE誘致競争が激化している中、宇都宮市においては、2018年3月に「きらめく資源と心のこもったおもてなしで記憶に残る感動を～観光交流 未来都市・うつのみや～」を将来の観光都市像とする「第2次宇都宮市観光振興プラン」を策定し、この中でMICEについては、「MICE等の誘致強化」及び「アフターコンベンションの充実」を掲げている。
- 「魅力と交流を創出し続ける都市～MICE交流未来都市・うつのみや～」を目指す将来像に掲げ、MICEを推進することにより、地域の力を結集し、宇都宮ならではの「価値」を創出・提供し続けることで、交流人口の拡大による賑わいと経済の活性化を図りながら、将来にわたって魅力と交流を創出する都市の実現を目指す。



4 宇都宮市MICE戦略 (2) 宇都宮市MICEのねらい

○ MICE推進のねらい

- 宇都宮市では、「地域への経済波及効果」や「ビジネス・イノベーション機会の創出」、「都市のブランドイメージの向上」といった効果はもとより、MICEの誘致・開催を積極的に進めることにより、「市内経済の底上げ・好循環の創出」及び「“稼ぐ都市”への飛躍」を目指す。
- MICE誘致・開催を積極的に進め、来訪者層の幅を広げることで、様々なビジネスチャンスが生まれ、メリットを享受した民間事業者の主体的な参画が促進される。
- 併せて、参加者の満足度向上などに取り組むことにより、MICE開催地として定着することで、さらなる市内経済の活性化や“稼ぐ”都市への飛躍を図るとともに、MICE開催を通じた宇都宮市の魅力を全国に発信することで、市民の愛着や誇りを醸成し、誰もが活躍できる社会の創出を目指す。



4 宇都宮市MICE戦略 (3) 宇都宮市MICEの方向性

○ 宇都宮市MICEの方向性

- 宇都宮市の産官学民が一丸となり、市の地域産業力、経済力向上のための手段としてMICEを位置づけ、都市の競争力向上と交流人口を拡大させるため、基本方針を以下のとおり掲げる。
- これらを宇都宮市におけるMICE推進の方向性とし、関係団体や事業者等と広く連携を図りながら、戦略的にMICEの推進に取り組む。

宇都宮市MICEの方向性

宇都宮市の産官学民が一丸となり、市の地域産業力、経済力向上のための手段としてMICEを位置づけ、都市の競争力向上と交流人口を拡大させる。

基本方針Ⅰ:

MICE獲得に向けた プロモーションの強化

宇都宮市でのMICE獲得につなげるため、主催者が宇都宮でのMICE開催の優位性や必然性を明らかにできるよう、戦略的・効果的にMICEプロモーションを展開する。

実現のための取組

基本方針Ⅱ:

MICEを活用した 地域産業の活性化

宇都宮ならではの強みや資源をMICEに有効活用するとともに、MICE開催を通じたビジネス機会の創出に取り組むことで、宇都宮市における地域経済の活性化に取り組む。

基本方針Ⅲ:

MICEを推進 するための基盤強化

都市が一丸となり、“稼ぐ”状況を作り出していくため、関連するステークホルダーや地域住民等を巻き込みながら、オール宇都宮によるMICE推進のための基盤を強化する。

4 宇都宮市MICE戦略 (4) 重点分野の設定

- 本戦略の期間において、多くのMICEを宇都宮市に誘致できるよう、幅広く誘致活動を展開するが、その中でも、特に積極的に誘致を進める重点分野を設定する。
- 重点分野については、「宇都宮市の強みを最大限活かせる分野」、「宇都宮市の産業競争力、経済力向上につながる分野」を満たすものと設定し、重点的に誘致を進めるべきターゲット分野を以下のとおり設定する。
- なお、「うつのみや産業ビジョン」等の各種計画の改定に合わせ、今後、見直しの可能性がある。

○ 重点分野

セグメント	重点分野	考え方
規模軸	300~500名程度の中小規模MICE	MICE市場において最も需要の高いボリュームゾーンであり、この規模を重点とし、多くのMICEを本市に誘致・開催することにより、MICE開催地として定着させるとともに、開催を通じ、地域全体の機運を高め、受入基盤の強化を図る。 また、一般的に大都市におけるMICEターゲットは大規模MICEを中心に全方位戦略であることから、他の大都市との差別化を図るため、中小規模のMICEに、積極的にアプローチを展開する。
地域軸	<ul style="list-style-type: none"> ・ 東京エリア ・ 東北エリア ・ 県内エリア 	宇都宮市の強みであるアクセスの有効性が高い都市を選定し、積極的な誘致活動を展開する。東京エリアには、大学や研究機関、PCO等の多くの主催者が存在するとともに、東北エリアにおいても、東北大学などの国公立大学や国立研究開発法人理化学研究所、国立研究開発法人産業技術総合研究所など、産学連携支援機関や研究機関が集積しており、これらのエリアには催事誘致が見込まれる多数の潜在的案件があると言える。 また、地元需要については確実に抑える必要があることから、地元の大学や企業に対してのアプローチについても重点とする。
分野軸	<ul style="list-style-type: none"> ・ 医学 ・ 製造業（機械器具・食品） ・ LRT関連産業 ・ 環境・エネルギー ・ 生産性向上（スマート農業等） ・ 次世代モビリティ（航空宇宙・ロボット・自動車・情報通信） ・ SDGs ・ 地域資源の有効活用（スポーツ・大谷関連・アーバンスポーツ等） 	宇都宮市の産業における重点分野や強みを有する分野であり、これらに関連するMICEの開催により、新たなイノベーション（新産業創出、新規事業開発、新規研究開発など）を促し、産業振興に繋げることを目的とする。

これらのセグメントにおいて、軸として掲げる「規模軸」、「地域軸」、「分野軸」を掛け合わせ、ターゲットを絞り込むことで、より宇都宮市に適したMICEの誘致を戦略的に推進する。

4 宇都宮市MICE戦略 (5) 成果指標の設定

- 本戦略の計画期間において、以下の成果指標を設定し、これらを宇都宮市MICE推進における共通目標とし、関係団体や事業者等と一丸となりながら、主催者に対する戦略的アプローチを展開することで、目標の達成を目指す。
- なお、これらの目標値については、新型コロナウイルス感染症の社会状況等を見極めながら、適宜、見直しを行うものとする。

○ 成果指標

	基準値	目標値（2026年）
MICE開催件数	84件（3年平均値）	220件
MICE消費額	7億円	22億円
参加者の満足度	—	80%

○ （参考）第2次宇都宮市観光振興プランにおける成果指標

MICEの推進を通じ、第2次宇都宮市観光振興プランに掲げる「観光入込客数」、「宿泊者数」、「観光消費額」の成果指標の達成につなげる。

観光入込客数	2016年（平成28年）	1,483万人	➡	2022年（令和4年）	1,550万人
宿泊者数	2016年（平成28年）	156万人	➡	2022年（令和4年）	163万人
【参考値】外国人宿泊者数	2016年（平成28年）	8.3万人	➡	2022年（令和4年）	11万人
観光消費額	2016年（平成28年）	872億円	➡	2022年（令和4年）	915億円

4 宇都宮市MICE戦略 (6) 基本施策及び基本事業

- 宇都宮市MICE推進における目指す将来像の実現に向け、以下の基本施策を掲げるものとする。
- また、基本施策に基づく基本事業を設定し、これらに産官学民が一丸となり取り組むことで、宇都宮市におけるMICE振興を図る。

○ 戦略体系図

基本施策1 宇都宮の強みや特徴を活かしたMICEの誘致

マーケティングに基づく戦略的な誘致活動を展開するとともに、宇都宮市の魅力を訴求できるようプロモーションの強化に取り組むことで、多くのMICE獲得を目指す。

施策①

都市プロモーション・誘致活動の強化

施策②

マーケティングの強化

基本施策2 開催支援・プログラム内容の充実

主催者の問合せにワンストップで応える窓口の設立等のサポート内容の充実や宇都宮の資源を活用したユニークベニューの開発など、MICE開催支援・プログラム内容の充実を図ることで、多くのMICE獲得を目指す。

施策③

MICEサポート内容の充実

施策④

体験プログラム内容の充実

基本施策3 宇都宮ならではの強みや資源の有効活用

MICE開催を契機としたビジネス機会の創出や地域産業の国内外へのPRに取り組むとともに、産業視察や工場見学等のテクニカルビジットの受入先の拡充を図ることで、MICE開催を通じた地域産業の活性化を目指す。

施策⑤

MICEを契機としたビジネス機会の創出

施策⑥

地域資源の有効活用

基本施策4 オール宇都宮による推進体制の構築

宇都宮としてMICEを実行するための体制を確立するとともに、MICEに関わる多様な人材の育成や地域の機運醸成など、MICEにおける推進体制の高度化を目指す。

施策⑦

MICEの核となる実行体制の整備

施策⑧

MICE分野における人材育成

施策⑨

MICE開催に対する地域の機運醸成

4 宇都宮市MICE戦略 (7) 具体的施策

基本施策1

宇都宮の強みや特徴を活かしたMICEの誘致

マーケティングに基づく戦略的な誘致活動を展開するとともに、宇都宮市の魅力を訴求できるようプロモーションの強化に取り組むことで、多くのMICE獲得を目指す。

施策名	事業名	具体的な事業内容
<施策①> 都市プロモーション・ 誘致活動の強化	重点分野における誘致ターゲットの設定	本戦略において設定した重点分野のうち、情報収集及び各種分析・マーケティング手法を活用しながら、具体的な誘致ターゲットを設定する。また、当該ターゲットについては、誘致活動の実績や開催状況等を踏まえ、適宜、見直しを図るものとする。
	重点誘致ターゲットを中心とした主催団体等への継続的なセールス活動	重点誘致ターゲットにおいて設定されたターゲットを中心に、関係者等と連携しながら、効果的なセールス活動を実施する。
	主催者等に対する訴求力の高いプロモーションツールの開発	MICE開催都市としての魅力を高めていくため、プロモーション映像やガイドブック等を作成するなど、MICEに特化した効果的なプロモーションツールを作成する。
	開催地決定に影響力のある主催者・キーパーソン等の招聘	開催地決定に影響力のある主催者・キーパーソン等を宇都宮市に招聘し、施設やユニークベニューなど、本市の魅力を実際に体験して頂くことで、催事の開催につなげる。

施策名	事業名	具体的な事業内容
<施策②> マーケティングの強化	MICE専門機関の統計データベースの活用・分析	JCCB等の専門機関が持つMICE統計データベースを活用・分析し、誘致に資する情報のデータベース化を行う。
	学協会、プランナー、主催企業等からの開催情報の把握・分析	主催者等との継続的な関係性の構築により、開催情報等を把握・再整理し、誘致に資する情報のデータベース化を行う。

4 宇都宮市MICE戦略 (7) 具体的施策

基本施策2

開催支援・プログラム内容の充実

主催者からの問い合わせ等にワンストップで応える窓口の設立等のサポート内容の充実や宇都宮の資源を活用したユニークベニユーの開発など、MICE開催支援・プログラム内容の充実を図ることで、多くのMICE獲得を目指す。

施策名	事業名	具体的な事業内容
<施策③> MICEサポート内容 の充実	主催者からの問い合わせ等に対するワンストップ・サポートの実施	主催者等のニーズに迅速かつ柔軟に対応するため、MICE開催の提案から大会運営サポート、アフターコンベンションの企画・手配など、宇都宮観光コンベンション協会内においてワンストップ・サポートを実施する。
	MICE主催者等のニーズに応えるサポート内容の充実	主催者等のニーズの把握に努めるとともに、他都市が実施している支援メニュー等を調査し、各種コーディネート内容の充実や支援ツールの開発など、サポート内容の充実を図る。
	安心・安全なMICE開催に向けたサポートの実施	ポストコロナにおける安心・安全なMICE開催に向け、ハイブリッド開催時の関連事業者やコロナ対策関連事業者等の紹介など、サポートの実施に取り組む。
	MICE補助制度の利用促進、制度内容の充実	開催支援制度について、制度のさらなる利用促進を図るとともに、利用しやすい制度となるよう、主催者からのニーズを踏まえながら、既存制度の見直しや新たな支援制度の設立など、内容の充実に取り組む。

施策名	事業名	具体的な事業内容
<施策④> 体験プログラム内容 の充実	ユニークベニユーの充実	参加者の滞在時間の延長と満足度の向上に向け、宇都宮ならではの特別感や地域特性を感じられる歴史的建造物などをユニークベニユーに利用可能な施設として拡充し、活用を図る。
	アフターコンベンション・エクスカージョン等の充実	周辺の自治体や施設等とも連携し、宇都宮ならではの魅力的なアトラクション等のメニューの充実を図り、アフターコンベンション・エクスカージョン等の充実を図る。

4 宇都宮市MICE戦略 (7) 具体的施策

基本施策3

宇都宮ならではの強みや資源の有効活用

MICE開催を契機としたビジネス機会の創出や地域産業の国内外へのPRに取り組むとともに、産業視察や工場見学等のテクニカルビジットの受入先の拡充を図ることで、MICE開催を通じた地域産業の活性化を目指す。

施策名	事業名	具体的な事業内容
＜施策⑤＞ MICEを契機とした ビジネス機会の創出	商談会や視察ツアー、ビジネスマッチングイベント等の開催	MICE開催を通じたイノベーション機会の創出や新たなネットワークの構築を図るため、販路拡大や課題の解消に向けた様々な業種によるビジネスイベント等を開催する。
	MICE開催を契機とした地域産業の国内外へのPR	展示会や国際会議等を開催するMICEのテーマに合わせた関連産業について、MICE開催を契機とした国内外へのPRに取り組む。

施策名	事業名	具体的な事業内容
＜施策⑥＞ 地域資源の有効活用	【再掲】ユニークベニューの充実	参加者の滞在時間の延長と満足度の向上に向け、宇都宮ならではの特別感や地域特性を感じられる歴史的建造物などをユニークベニューに利用可能な施設として拡充し、活用を図る。
	【再掲】アフターコンベンション・エクスカーション等の充実	周辺の自治体や施設等とも連携し、宇都宮ならではの魅力的なアトラクション等のメニューの充実を図り、アフターコンベンション・エクスカーション等の充実を図る。
	テクニカルビジット（産業視察・工場見学・企業訪問等）受入先の拡充	宇都宮市での開催機会を創出するため、先端技術や独自技術等を有する企業での産業視察や工場見学など、テクニカルビジット受入先の拡充を図る。
	ナイトタイムコンテンツを活用したMICE参加者の消費促進	参加者の消費単価の向上を図るため、ジャズやカクテルをはじめ、宇都宮市のナイトタイムコンテンツをMICEに有効活用することで、MICE開催の魅力を高める。

4 宇都宮市MICE戦略 (7) 具体的施策

基本施策4

オール宇都宮による推進体制の構築

宇都宮としてMICEを実行するための体制を確立するとともに、MICEに関わる多様な人材の育成や地域の機運醸成など、MICEにおける推進体制の高度化を目指す。

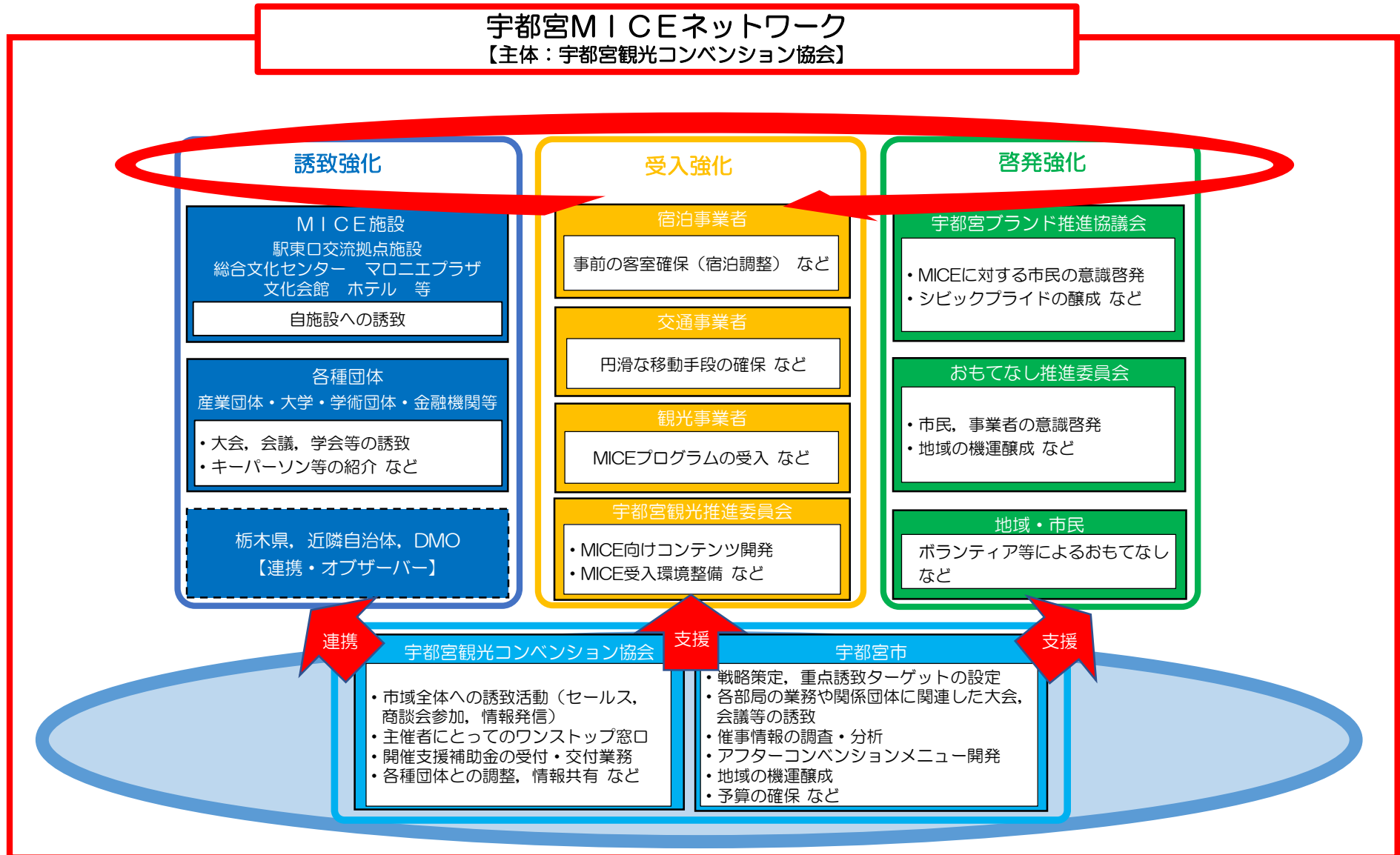
施策名	事業名	具体的な事業内容
<施策⑦> MICEの核となる 実行体制の整備	関係団体等との連携によるMICE推進体制の整備	関係者が共通の認識を持ち、緊密に連携を図りながらMICEの推進に取り組むため、産業団体、大学、MICE施設等が一丸となった推進体制の構築を図る。また、ポストコロナにおいては、安心・安全なMICEの開催が求められるなど、開催形態が大きく変化することが想定されるため、これらの社会変動等に柔軟に対応できるよう、関係団体等との連携強化を図る。
	宇都宮観光コンベンション協会における組織体制の強化	MICE推進における中核的振興機能を担うため、組織形態の法人化や組織定員の拡充など、宇都宮観光コンベンション協会の強化に取り組む。
	周辺自治体及び関係団体、県内DMO等との連携強化	栃木県をはじめ、周辺市町や県内観光協会等との連携や情報交換等を行いながら、アフターコンベンションにおける連携を行うなどしてMICE誘致力を高め、多様なMICEの誘致に取り組む。

施策名	事業名	具体的な事業内容
<施策⑧> MICE分野における 人材育成	MICE分野における人材の育成・確保や人的ネットワークの構築	MICEの実務に求められる専門性を持った人材を育成・確保するとともに、他県のコンベンション協会等との交流を図るなど、幅広い人的ネットワークを構築し、誘致をはじめとしたMICEの推進力を高める。

施策名	事業名	具体的な事業内容
<施策⑨> MICE開催に対する 地域の機運醸成	MICE関連シンポジウムやセミナー等の開催による地域の機運醸成	MICE関連のシンポジウムやセミナーを通じ、MICE開催の意義・効果を関係事業者や市民等に広く発信することで、地域におけるMICE開催の理解を得ながら、機運の醸成を図る。
	広報紙等を活用した市民への周知活動	地域の機運を高めていくため、広報紙やホームページ等を通じた恒常的な情報発信により、周知活動に取り組む。

5 推進体制 宇都宮市におけるMICE推進体制

- 宇都宮観光コンベンション協会が市全体への誘致活動や主催者にとってのワンストップ窓口など、MICE推進における中核的機能を担うとともに、推進にあたっては、宇都宮市、協会のほか、MICE施設（ホテルを含む。）や各種団体（産業団体、大学・学術団体、金融機関）等と協働で「宇都宮MICEネットワーク」を設立し、各者がそれぞれの役割を担いながら、情報共有や事業者間連携の強化など、連携を密に図り、“オール宇都宮”でMICEを推進していく。



用語	解説
イノベーション	新しい製品やサービスなど、新しい物事を生み出すこと。
JNTO	「Japan National Tourism Organization（日本政府観光局）」の略。 東京オリンピックが開催された1964年に日本の政府観光局として設立し、訪日外国人旅行者の誘致に取り組んできた公的な専門機関。世界の主要都市に海外事務所を持ち、日本へのインバウンド・ツーリズム（外国人の訪日旅行）のプロモーションやマーケティングを実施している。
JCCB	一般社団法人コンGRES・コンベンション・ビューローの略。 平成21年に一般社団法人となり、会員相互間の密接な連携を図りながら、国内・国際コンベンションの誘致促進やコンベンション振興のための各種事業を実施している。
テクニカルビジット（産業視察・工場見学・企業訪問等）	MICE参加者が関心を持つ、地元企業などの産業技術や研究の実地視察及び受入企業等との交流を行うプログラム。ビジネス交流やイノベーションの機会の創造などの産業振興にもつながる可能性がある取組とされている。
ネットワーク型コンパクトシティ	宇都宮市では、市民の「生活の質の向上」を基本として、公共投資と民間の経済活動を組み合わせることによって、「ネットワーク型コンパクトシティ（連携・集約型都市）」を長期的に形成していく取り組みを進めている。
シビックプライド	都市に対する市民の愛着と誇りを指す言葉であり、都市をより良くするために自分自身が関わっているといたった主体性を持つ姿勢も含む。
ユニークベニュー	歴史的建造物、文化施設や公的空間等で会議、レセプションを開催することで特別感や地域特性を演出できる会場のことを指す。
アフターコンベンション	コンベンション開催後に行われる催しや懇親会を指す。
エクスカージョン	コンベンション開催中や開催後に企画される遊覧旅行、視察旅行を指す。
ナイトタイムコンテンツ	夜間に楽しめるコンテンツであり、消費拡大による地域の活性化につながることを期待される。

宇都宮市MICE戦略

令和4年3月
宇都宮市
(経済部観光交流課)